〈指導事例集〉

外国語科（英語）

外国語科（英語）の研究の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・167

表現活動の充実と評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・168

指導事例１　ＯＣＩと英語Ｉ（第１学年）　―スピーチ指導を中心に―　・・・・・170

指導事例２　英語Ⅱ（第３学年）　―音読指導など―　・・・・・・・・・・・・・・183

指導事例３　英語Ⅱ（第３学年）　―ライティング指導―・・・・・・・・・・・・・190

指導事例４　Reading（第３学年）　―音読指導―　・・・・・・・・・・・・・・・・197

外国語科（英語）の研究の概要

本年度の研究では、指導と評価の一体化を目指した指導案を作成するとともに、普段の授業における評価と、定期考査による評価問題の工夫・改善に取り組んだ。なお、４つの指導事例のうち３つは３年生を対象とし、３年生の指導においても新学習指導要領の趣旨に基づいた授業を試行的に実践した。

（１）授業における評価の工夫・改善

普段の授業において、様々な言語活動を用意し、それを適切に評価して生徒の学習意欲の喚起につなげていくことが大切である。そのためには、まず、言語活動の目標を明確にし、事前に評価ポイントを生徒に知らせることが必要である。また、生徒自身が日々の努力の成果を把握できるように工夫することも大切である。さらに、生徒自身が「何を、どの程度までできるか」というような学習過程を振り返る自己評価、生徒同士の相互評価も積極的に取り入れることが望ましい。本研究では、評価の４観点ごとに単元・プロジェクトの評価規準及び具体的な言語活動ごとの評価ポイントを作成し、自己評価、相互評価を行った。さらに定期考査後にアンケートを実施し、生徒の感想をその後の授業や指導に活かした。

（２）定期考査における工夫・改善

定期考査は授業の一環であるという考え方のもとに、生徒がテストの準備をすることで学習者の能力伸長につながるテスト問題の作成に取り組んだ。日常の授業の指導内容を評価の対象とし、事前にテストの出題ポイントを具体的に公開した。また、各設問がどの評価規準に該当するか明らかになるようにした。

指導事例１　・授業における評価方法の工夫（自己評価、相互評価、ワークシート、アンケート）
　　・定期考査における工夫（語彙に関する問題、表現の能力に関する設問）
指導事例２　・学習指導計画（単元の目標、評価規準、指導計画、授業展開例）
　　・授業における評価方法の工夫（音読テスト、アンケート）
　　・定期考査における工夫（表現の能力に関する設問、理解の能力に関する設問等）
指導事例３　・学習指導計画（プロジェクトの目標、評価規準、指導計画、指導過程）
　　・指導と評価の工夫・改善点（自己評価、相互評価、アンケート）
指導事例４　・学習指導計画（単元の目標、評価規準、指導過程）
　　・音読指導における評価方法の工夫（評価ポイント，指導実践例、アンケート）
　　・定期考査における工夫・改善

＜研究協力員＞

栃木県立足利南高等学校　　教諭　安間ふみ子
栃木県立足利西高等学校　　教諭　星野　一美
栃木県立芳賀高等学校　　教諭　仲島　信一
栃木県立那須高等学校　　教諭　金谷　英明

＜研究委員＞

栃木県総合教育センター研修部　指導主事　佐野　宏夫

表現活動の充実と評価について

これまでの評価は、中間考査や期末考査などの筆記試験を用いて行うことが一般的であった。この評価法は「言語や文化についての知識・理解」の観点を評価するには適したものであるが、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」や「表現の能力」を評価するには不十分である。今回の取組では、音読テストや暗唱テスト、スピーチ、観光案内パンフレット作成、俳句づくり等の表現活動を指導に盛り込み、「表現の能力」の観点を中心に評価した。

従来の学習観は、「将来、英語が必要になるから学んでおこう」という“ just-in-case learning ”であり、教科書を見ながらテープを聞いて発音したり、課題にそって作文したり、表現を覚えたりするドリル学習からなる「個人的な作業」が主に行われてきた。指導事例では「必要になったときにそれに即応して学ぶ」といった“ just-in-time learning ”の考え方や、必然性のある表現活動、さらにペアワーク、グループワークからなる「共同学習」を取り入れるよう工夫した。

評価の点では、これまで「身に付けたこと」を評価し、どれだけ知識が頭に入っているかを定期考査等で測定することが中心であったが、指導事例では「できる(できた)こと」「成し遂げた過程」を評価し、英語使用能力を測定することを目指して授業実践に取り組んだ。

1　単元・プロジェクトの指導計画の作成

指導計画には、「３年間あるいは１年間の授業を通して、最終的にどのような力をもつ生徒を育てたいのか」という長期的な指導計画・目標(ビジョン)を設定することが重要である。今回の事例では、各単元の指導計画を中心に、単元の枠を越えたプロジェクトの指導計画、単元の中に位置づけられた表現活動の指導過程を作成した。なお、複数の科目・単元を扱った指導事例(１)では各単元の指導計画を省略した。

今回の事例では、まず、単元・プロジェクトの目標を設定した。次に、平成 15 年９月に国立教育政策研究所が発表した「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について」を参考に、各学校の生徒の実態を考慮して、単元の目標に準拠した評価規準を作成した。また、その評価規準と評価方法（ワークシート、観察、音読テスト等）との関連を示した。

2　表現活動について

田中武夫(2003)は、表現意欲を高めるポイントとして、必然性（生徒が表現したいと思うような場面や状況を作り出すこと)、具体性（事前に活動の例や評価のポイントを提示し、生徒に活動内容を具体的にイメージさせて取り組ませること)、自己関連性（生徒自身のことや身近で親しみやすい事柄を扱うこと)、自由度（生徒自身の意志や判断で自由に表現させること）の４つをあげている。今回の取組では、この４点に加え、共同学習を取り入れた表現活動の工夫を目指した。

3　評価ポイントの作成

表現活動における評価の目的は、人から評価されたことを自分で振り返り、表現内容を良いものにし、表現力を高めることである。それには何が評価されるのか生徒に前もって具体的に知らせること、そして何が評価されたのか生徒に具体的に知らせることが必要である。そこで、単元の評価規準に基づいて表現活動ごとに、より具体的な評価ポイントを作成し、「この活動を通して、どのような生徒に育ってもらいたいのか」、「この活動を行う中で、生徒にどのような力を身につけてほしいのか」をできるだけ具体的に生徒に示すことにした。

4　評価ポイントで何を評価するのか

コミュニケーション能力の構成要素として、カナル(Canale, 1983)は、文法能力（相手に伝えたいことを正確に表現できる力)、談話能力（話の展開や文章の構成を理解して伝えたいことを一貫してまとめて表現する力)、社会言語能力（場面や相手との関係を理解して適切に表現できる力)、方

略能力（行き詰まったときなんとかして表現できる力）をあげている。また、これら４つの言語的な要素の他に、アイコンタクトのとり方、ジェスチャーの使い方、表情などの非言語的な要素も重要であろう。

国立教育政策研究所の発表した評価規準も、この構成要素に即して作られている（松浦，2002 参考)。英語Ｉの評価規準にある「関心・意欲・態度」の中の〔言語活動への取組〕は、非言語的な要素に該当し、〔コミュニケーションの継続〕は方略能力を表している。「表現の能力」にある〔正確な音読・発話・筆記〕や、「理解の能力」にある〔正確な聞き取り・読み取り〕は文法能力を指している。また、「表現の能力」の〔適切な音読・発話・筆記〕や、「理解の能力」の〔適切な聞き取り・読み取り〕は談話能力と社会言語能力に相当する（松浦，2002)。以上の評価規準に加えて、今回の取組の評価ポイントでは、表現の内容そのものである個性豊かな表現内容とその量にも着目した。

５　自己評価と相互評価

自己評価では、表現活動の後、活動内容や作品を振り返ったりして客観的に自分自身を見つめ直すことが重要である。目標にどれぐらい到達したか、どれくらい成長したかを生徒に気づかせ達成感・成就感をもたせることが重要になる。そのことが、次の活動ではこうしてみたいという学習意欲の喚起に結びつくことになる。

相互評価では、級友に評価されることで発表者に真剣味が増し、聞き手側も手が抜けず積極的に表現活動に参加できる利点がある。また、級友の考えていることが理解できるので、生徒の間に相互理解・信頼関係を培うことができる。また、この相互理解・信頼関係こそが自己表現活動をより活発にする重要な要素になる。そこで、今回の取組では、表現活動の直後に自己評価、相互評価をできるだけ取り入れた。

６　定期考査における評価問題の作成

定期考査の出題方針やポイントを事前に公開し、授業中の活動を考査に盛り込むよう工夫し、指導効果が検証できるようにした。また、答えが一つとは限らない評価問題を工夫した。

７　今回の取組を振り返って

指導と評価の一体化を目指したが、実際は形成的な評価をタイムリーに実施し、次の指導へ活かす段階までは到達できずに終わった。また、普段の授業において観察やポートフォリオ評価を行ったが、生徒の内面的な成長を評価することはできなかった。しかし、今回の４つの指導事例のそれぞれの最後に書かれているアンケートの結果から生徒の感想を読み取ると、今まで軽視されがちであった「表現の能力」を高める言語活動は、生徒の学習意欲を喚起していることがわかった。自己評価・相互評価と共に表現活動を共同学習という形で取り入れることは、英語授業のさらなる活性化へとつながっていくものと考えられる。

「３年間の英語授業を通して、どのような生徒を育てたいのか」といった長期的なビジョンを、各学校の教育目標に基づいて設定することが、今後、必要になってくると思われる。生徒の発達段階やコース選択・文理選択等の進路指導の時期、さらには修学旅行等の学校行事の時期に応じて、いつ、どのような授業を行い、その中にどのような言語活動（表現活動）を盛り込み、タイムリーに評価していくかが、今後の課題であろう。

＜参考文献＞

・国立教育政策研究所「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について」
(2003 年 9 月)
・松浦伸和「外国語における新しい評価の在り方と評価方法の改善」 (2002 年 7 月 中等教育資料)
・田中武夫他「自己表現活動を取り入れた英語授業」 (2003 年 大修館書店)
・杉本卓・朝尾幸次郎「インターネットを活かした英語教育」(2002 年 大修館書店)

指導事例１　Oral Communication Ⅰ　と　英語Ⅰ（第１学年）

Ⅰ　「スピーチ」の指導（Oral Communication Ⅰ）

１　表現活動（スピーチ）の指導目標

自分の好きなことや自分の考えを分かりやすくまとめさせ、英語で紹介することによって表現力を育成する。また、発表されたものに耳を傾けさせ、コミュニケーションへの態度を養う。

２　単元の評価規準の中で「スピーチ活動」に関係のある規準

（関心・意欲・態度）
・顔を上げて間違いを恐れずに発表している。
・相手を見て発表を聞いたり、メモを取っている。
（表現の能力）
・正しいリズムや発音、イントネーションを用いて発表できる。
・重要な点を整理し、わかりやすく自分の好きなことや考えを、適切な声の大きさで発表できる。

３　指導実践内容

【実践例１】自分の好きなものを紹介しよう＜音楽＞
Show & Tell (実物を見せながら発表)
＜目標＞　(1)　自分の好きな音楽について、英語で説明し相手に具体的に伝えることができる。
(2)　相手の発表に耳を傾け、要点をメモしながら評価することができる。

＜指導過程＞
事前準備として、テーマを決め（今回は「音楽」）提示する。具体的な内容として、①タイトル ②いつ頃の曲（グループ）か　③好きな理由（３点）をまとめさせる。最初は日本語で考えをまとめさせ、次に英語で表現させる。今回は実物（CD 等）を見せながら発表する。

【実践例２】自分の考えを発表しよう＜自分で選んだテーマについて＞
Presentation
＜目標＞　(1)　興味のあるテーマを１つ選び、相手に分かるように考えを整理し英語で発表することができる。
(2)　テーマについて３つのポイントに整理してまとめることができる。
(3)　相手の発表に耳を傾け、要点をメモしながら評価することができる。

＜指導過程＞
まず、いくつかのトピックを生徒と相談しながら選び出す。自分の興味あるものから１つ選ばせる。それを選んだ理由を考えさせ、またトピックについて自分の考えを日本語でまとめさせて、次に英語で書かせる。英語に直せない生徒には教師側から援助をする。要点を３つにまとめ、最終的に１分程度のスピーチができるようにさせる。

４　評価ポイント（生徒への事前提示用）【実践例１，２共通】

目標：第１段階	・前を向いてわかりやすく発表できる。 ・クラス全員が聞き取れる声の大きさで、与えられた時間を十分に使って発表できる。
第２段階	・内容は具体的、個性的である。 ・正しいリズムや発音、イントネーションを用いて発表できる。

5　ワークシート【実践例１、２共通】

“Presentation”

各自、１つのテーマを選び、それについて発表します。その準備として、選んだテーマとその理由、テーマについて３つのポイントをあげて英文で完成させなさい。

1)　Choose 1 topic

_____

2) Write the reasons why you chose the topic.

_____

3) Think about 3 points for the topic.

_____

_____

_____

Class_____　No_____　Name_____

【実践事例２】のテーマ選択肢例

- What would you like to do after graduation?
- Why do you study English?
- Would you like to be married?
- Why do you have a Keitai(cell phone)?
- If you could, where would you like to travel?
- Is being cool/popular important to a teenager?
- Are teenagers smarter than adults?
- Is dating important for teenagers?
- Should girls invite boys out on a date?

6　発表における評価ポイント（教師用）

５、４については「十分満足できる」と判断する。
３については、「おおむね満足できる」と判断する。
２、１については、「努力を要する」と判断する。

（態度）

５ --- 前を向いて、自信をもってジェスチャーなどを含みながら発表している。
４ --- 前を向いて、ある程度わかりやすい声で発表している。
３ --- 時々下を向いて発表している。
２ --- じっとうつむいたまま発表している。
１ --- うつむいたまま途切れ途切れに発表している。

（声の大きさ）

５ --- 終始、はっきりとした声で、聞き取りやすく発表している。
４ --- 不明瞭な箇所があるが、ある程度はっきりとした声で発表している。
３ --- 概ね聞き取れる声で発表している。
２ --- 聞き取れない箇所が半分を占めるほど小さい声で発表している。
１ --- 全く聞き取れない声で発表している。

（内容）
５ --- 自分らしさを出した内容で、様々な英語表現を用いてよくまとめている。
４ --- 自分らしさを出した内容である。
３ --- 教科書などからの文章をそのまま借用しているが、まとまっている。
２ --- 特に工夫は見られず、文章にまとまりがない。
１ --- 内容がまったくまとまっていない。
（発音・流暢さ）
５ --- 正しい発音・強弱に注意し、発音の間違いがほとんどなく流暢に発表している。
４ --- 発音の間違いが多少あるが、強弱に注意しながらある程度流暢に発表している。
３ --- 途切れながらではあるが、ある程度正しい発音や強弱を意識して発表している。
２ --- 正しく発音できている語が少なく、途切れながら発表している。
１ --- ほとんど正しい発音ができず、途切れてしまう。

評価ポイントは、一度にすべてではなく、段階ごとに見ていく。第１段階では、（態度）、（声の大きさ）で３以上を目指し、８０％以上の生徒が達成できれば、次の第２段階において（内容）、（発音・流暢さ）に注意しながら取り組むようにさせる。

７　発表時の相互評価シート例　【実践例１、２共通】　（人数分の枠を作り、全員に評価をさせる）

Presentation　　評価シート（生徒用）

No (順番)	Name (発表者名)	Grade (適当と思われる部分に○をつける)	Memo
1		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
2		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
3		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
4		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
5		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
6		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
7		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
8		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	
9		4 ---- 3 ---- 2 ---- 1	

評価のポイント (生徒用)

4 = 具体的で個性豊かな内容を、わかりやすくはっきりした声で、前を向いて発表している。
3 = 具体的な内容をわかりやすく発表しているが、時々原稿を読んでいる。
2 = 原稿を読みながら、ある程度はスムーズに発表している。
1 = 下を向いたまま、なんとか原稿を読んで小さな声で発表している。

８　第１段階の自己評価シート　【実践例１、２共通】

Class:　　No:　　Name (　　)

評価ポイント
(1)できるだけたくさん話すよう努力した。　[4 3 2 1]
(2)聞き手にわかりやすくなるよう工夫した。　[4 3 2 1]
(3)メモを見ずに、前を向いて話せるように努力した。　[4 3 2 1]
(4)大きな声ではっきりと話すことができた。　[4 3 2 1]

Ⅱ　英語で俳句を作って、発表しよう（英語Ⅰ）

教科書：*Power on English I*　Lesson 3 (東京書籍)

1　「俳句作成活動」の指導目標

英語で俳句を作ることで、英語に対する興味を高め、グループごとに発表用のシートを作成させるとともに、俳句の鑑賞を通じて表現力を養う。

2　単元の評価規準の中で、「俳句作成活動」に関係のある規準

（関心・意欲・態度）

・言葉だけではなく、見やすくイラストなどを加えている。

・関心をもって感想を述べたり、質問している。

（表現の能力）

・伝えたい情報や考えを正しく書くことができる。

・伝えたい内容、目的に応じて語句や表現を選択し適切に書くことができる。

3　指導過程

(1) 教科書の内容が終了した後、次時の活動の練習として各生徒に英語で俳句を作らせ、紙に書いて提出させた。上手な作品を印刷し生徒に配布した（次頁参照）。

(2) 次の時間に4～5人のグループに分け、「季節」が書いてあるくじを引かせた。

(3) 季語を入れた俳句をグループごとに2句作り、イラストを加えて表現させた。

(4) グループから2名ずつ代表者を選び発表させた。用意した補助プリント（次頁参照）を配布し、聞いている生徒からも必ず質問するように指導した。

4　評価方法（発表をもとにグループ単位で相互評価する。）

(1)評価のポイント（生徒への事前提示用）

□独創性があり、季節感が伝わってくる	[4　3　2　1]
□英語のつづりや語法が正確である	[4　3　2　1]
□発表の仕方がわかりやすい	[4　3　2　1]

(2)相互評価シート　（生徒一人一人に配布）

班	評価のポイント	評　価	コメント
A	独創性があり、季節感が伝わってくる	4　3　2　1	
	英語のつづりや語法が正確である	4　3　2　1	
	発表の仕方がわかりやすい	4　3　2　1	
B	独創性があり、季節感が伝わってくる	4　3　2　1	
	英語のつづりや語法が正確である	4　3　2　1	
	発表の仕方がわかりやすい	4　3　2　1	
C	独創性があり、季節感が伝わってくる	4　3　2　1	
	英語のつづりや語法が正確である	4　3　2　1	
	発表の仕方がわかりやすい	4　3　2　1	

（上手な作品を印刷し生徒に配布したプリント）

Haiku　Try It Out ! E　(p.33)

クラスメイトが作った俳句を見てみよう　(2003/07/15)

1) Garden in my house
enjoy fireworks
with my family

my in the garden なんと書くと良いね

2) Broken Watermelon
Romping children
Summer sea

遊びまわる子供たちの様子

3) I swim in the sea
Swimming pool
I eat a watermelon

涼しくなってきたね a slice of watermelon だと、一切れのスイカです

4) Hot sunshine
Broken watermelon

Hot sun is shining でもよいかも

5) Summer festival
Sea
Blue sky

海での夏祭の様子

6) Hot summer
The beach grilling
Summer sunshine

焼けつく砂浜ですね

7) Fireworks is beautiful
shine…

花火とお祭り

8) Going to the festival

9) Summer Vacation
all smile
flood

楽しかったな？

10) Summer is hot
I don't like summer
I feel sick with summer

夏、苦手なのね

11) Summer vacation
Fireworks are beautiful
Night sky

夜空に花火 in the night sky

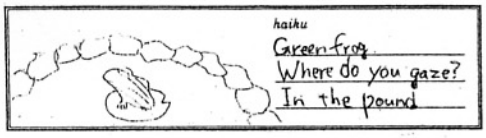
12) Grandfather
Waist curve
don't walk

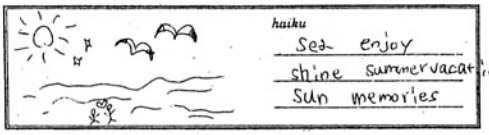
おじいさんの姿ですね

13) Cheery fall
Wind and same
Spring end

春のおわりかな？

おまけ
イラスト付きで書いてくれた人
Thanks a lot!





（発表に対し、質問を促す補助プリント）

2003, Jul. 17

Haiku　Presentation!　英語 I

2 presenters for each group (グループで発表者２名)

← グループ番号

発表者　" Hello, this is group No._____."
" Our group has *haiku* for _____."

← 自分のグループの季節

ひとつずつ俳句を読みましょう

聞いている人は・・・・　(質問してみよう)

← 発表ごとに、必ず質問をして貰う

" Excuse me." (すみません)
" Can I ask you a question ?" (質問してもいいですか)
" What is ------ ?" (---は何ですか)
" What does -------- mean ?" (---はどういう意味？)

答えるときは・・・

" It is ---------." (それは---です)
" It means ----------." (それは---を意味します)

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

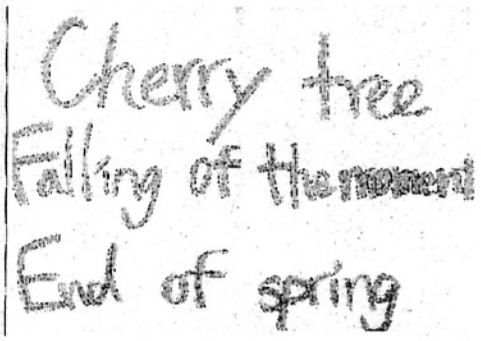
" What do you think about this haiku ?" (この俳句についてどう思う？)

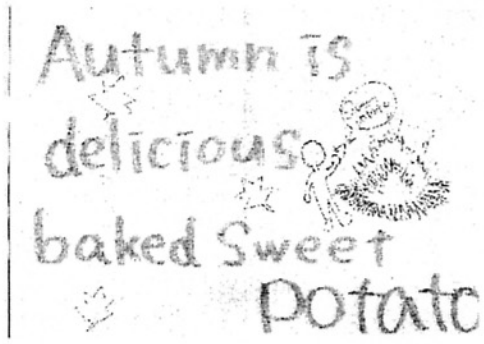
・・・と聞かれたら、

" I chink it is ----------." (それは---だと思います)　と答えよう

<examples>　good / excellent / wonderful / beautiful / interesting / nice / difficult / great / fun / など

（実際の作品例）





III　インタビューをしてワークシートを完成させよう（英語Ⅰ）

“あなたはどんな人間ですか？”

1　「インタビュー活動」の指導目標

コミュニケーションへの積極的な態度を養うとともに、インタビューすることで、重要表現の定着を図る。

2　単元の評価規準の中で「インタビュー活動」に関係のある規準

（関心・意欲・態度）

・学んだ表現を使って、積極的に相手に質問したり答えたりしている。

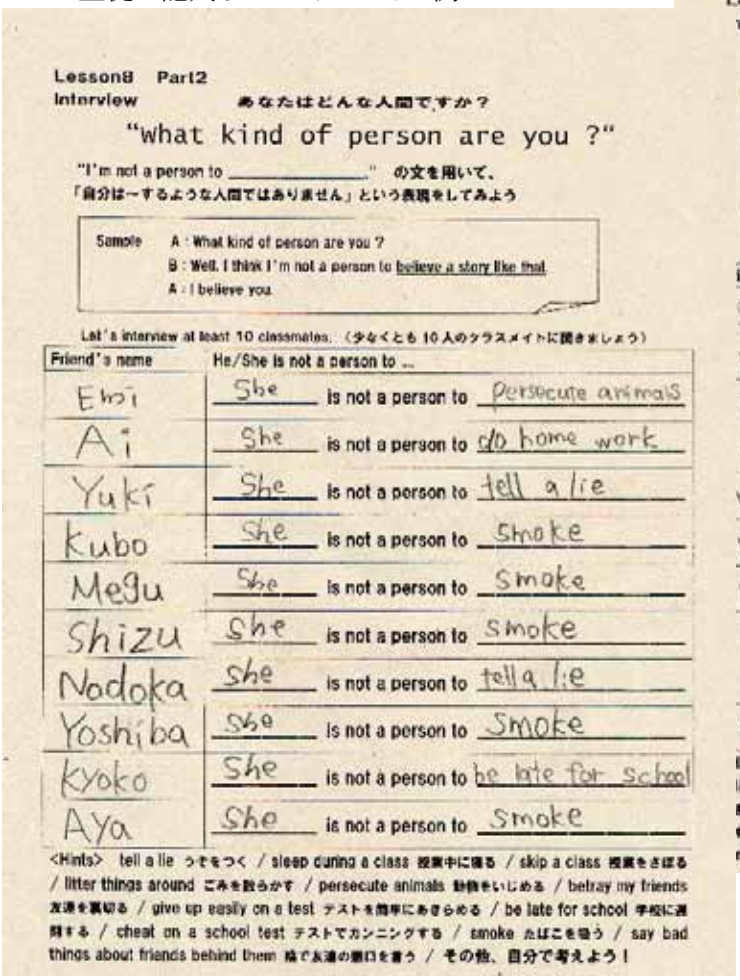
3　指導過程

教科書の中の重要文の1つを用いて、クラスメイトとのインタビューをさせ、聞き取った事項をワークシートに記入させる。最初は全員起立させ、同時にスタートさせる。指定された人数分のインタビューが終了した生徒から着席させ、9割程度の生徒が終了した時点で数名に発表させる。最後にワークシートを全員提出させて、記入されているかどうか確認し、コミュニケーションへの態度と重要表現の定着度を評価する。

4　評価方法

観察と完成したワークシートをもとに教師が評価する。

生徒の記入したワークシートの例



Lesson8　Part2
Interview　あなたはどんな人間ですか？

“what kind of person are you ?“

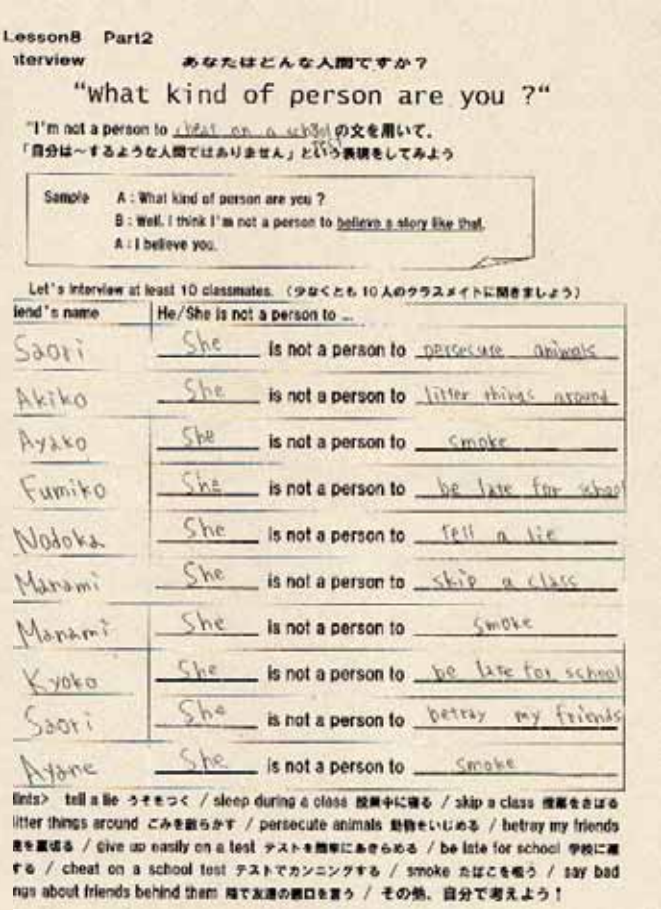
“I'm not a person to _____.” の文を用いて、
「自分は～するような人間ではありません」という表現をしてみよう

Sample　A : What kind of person are you ?
B : Well, I think I'm not a person to believe a story like that.
A : I believe you.

Let's interview at least 10 classmates.（少なくとも 10 人のクラスメイトに聞きましょう）

Friend's name	He/She is not a person to ...
Emi	She is not a person to persecute animals
Ai	She is not a person to do home work
Yuki	She is not a person to tell a lie
Kubo	She is not a person to smoke
Megu	She is not a person to smoke
Shizu	She is not a person to smoke
Nadoka	She is not a person to tell a lie
Yoshiba	She is not a person to smoke
Kyoko	She is not a person to be late for school
Aya	She is not a person to smoke

<Hints>　tell a lie うそをつく / sleep during a class 授業中に寝る / skip a class 授業をさぼる / litter things around ごみを散らかす / persecute animals 動物をいじめる / betray my friends 友達を裏切る / give up easily on a test テストを簡単にあきらめる / be late for school 学校に遅刻する / cheat on a school test テストでカンニングする / smoke たばこを吸う / say bad things about friends behind them 陰で友達の悪口を言う / その他、自分で考えよう！



Lesson8　Part2
Interview　あなたはどんな人間ですか？

“what kind of person are you ?“

“I'm not a person to cheat on a school の文を用いて、
「自分は～するような人間ではありません」という表現をしてみよう

Sample　A : What kind of person are you ?
B : Well, I think I'm not a person to believe a story like that.
A : I believe you.

Let's interview at least 10 classmates.（少なくとも 10 人のクラスメイトに聞きましょう）

Friend's name	He/She is not a person to ...
Saori	She is not a person to persecute animals
Akiko	She is not a person to litter things around
Ayako	She is not a person to smoke
Fumiko	She is not a person to be late for school
Nadoka	She is not a person to tell a lie
Manami	She is not a person to skip a class
Manami	She is not a person to smoke
Kyoko	She is not a person to be late for school
Saori	She is not a person to betray my friends
Ayane	She is not a person to smoke

Hints>　tell a lie うそをつく / sleep during a class 授業中に寝る / skip a class 授業をさぼる / litter things around ごみを散らかす / persecute animals 動物をいじめる / betray my friends 友達を裏切る / give up easily on a test テストを簡単にあきらめる / be late for school 学校に遅刻する / cheat on a school test テストでカンニングする / smoke たばこを吸う / say bad things about friends behind them 陰で友達の悪口を言う / その他、自分で考えよう！

Ⅳ　定期考査における工夫・改善（英語Ⅰ）

定期考査では、授業で学習した教科書の内容にそって、ワークブック、単語集、基本文法練習帳などから出題した。また、各問題がどの観点を評価するものなのか明確にすることにした。

(1)言語や文化に対する知識・理解をみる設問

単語･熟語　――　授業開始時に行っている単語テストから、同様のものを出題する。視覚的効果もねらい、状況にあわせてイラストや図なども用いる。

（以前までは、単語のみ日本語→英語、英語→日本語の出題をしていたが、できるだけ自然な形で出題することを目標とし、文章の中に組み込んで出題するようにした。）

以前までの問題形式（例）

以下の単語を、英語は日本語に、日本語は英語に直しなさい 1）家族　2）娘　3）自転車　4）夏　5）紳士　6）face　7）tooth　8）cheek

変更後の問題形式（例）

（　）内の日本語を、英文にあうように適切な英単語に直しなさい 1）　There are 5 people in my (家族). 2）　She has a seven-year-old (娘) . 3）　How did you come to school？----　I came here by (自転車) .　　など

(2)表現の能力をみる設問

生徒の内面への質問　――　教科書の内容と関連のある質問を、生徒自身が経験したことについて出題し、自分なりの答えを書くことができるかどうかをみる。 授業中にも練習として答えさせておく。

【授業中に配布する練習用プリント（一部）】

次の＜例1＞＜例2＞は答え方を各自に覚えさせてから、授業での英問英答に利用した。

＜例1＞

Questions (Review LESSON４) インタビューテスト用　答えをしっかり言えるように！ 1)Have you ever seen a hot-air balloon ? 2)Where is Chateau d'Oex ? 3)Where do you live?　Where were you brought up ? 4)What do you use to blow air into the envelope ? 5) Are you interested in hot-air balloons ?

＜例2＞

Review! (復習)　Lesson5　“Everybody can help”

<1> Questions　(　)内の文を用いて、答えられるようにしよう。

1) Where does Ram live ?

(He lives in _____ .)

2) What does Tom's family do to help Ram ?

(They send him _____,_____,_____, and _____.)

3) When did Tom's mother want to become an overseas volunteer ?

(When she was _____.)

4) What did she want to do ?

(She wanted to _____.)

5) How did Tom's mother meet Ram ?

(She _____, but her friend _____.)

6) How long does it take Ram to go to school ?

(It takes about _____.)

7) How does he go to school ?

(He _____.)

【実際に中間考査で出題した問題】

Ⅸ. あなた自身への問題です。以下の質問に英語で答えなさい。

1) Have you ever been to Okinawa ?

2) Where were you brought up ?

3) How do you come to school ?

※　正答率、誤答例などは「考察・まとめ」(P. 15) を参照。

Ⅴ　考察・まとめ

１　英語になじみやすい授業の雰囲気作り

クラスの中には、英語を最初から苦手としている生徒や、ゲームや話すことはなんとなく好きだが、文の意味や構造が理解できない生徒もいる。また、ペーパーテストにはなんとか取り組めるが、発言したり自分自身について発表したりすることが苦手という生徒も多い。また、英語に対する拒否反応を示す生徒もいるため、授業の最初にできるだけリラックスした雰囲気を作ることを心がけた。英問英答では、できるだけ身近な内容や、前時で学習した内容の復習を取り入れるようにして、多くの生徒に慣れさせるようにした。表現するのが苦手な生徒も頻繁に英問英答を繰り返すことで、英語で答えることができるようになった。

２　スピーチの指導

オーラル･コミュニケーションの授業（OCⅠ、OCⅡ）は、聞くこと･話すことを中心として指導する科目である。本事例では、スピーチ等の発表をさせるまでに時間がかかった。スピーチは試験扱いで行い、聞き手にも評価をさせたが、問題点は生徒が自分の発表の準備に夢中で、発表者に意識が向けられていないことである。準備不足を補うために、全体発表の前に、ペアによる発表練習時間を十分に取る必要があった。

発表をさせる際の手順

1. テーマを決める。原則として、生徒各自で決めさせるが、場合によっては、例をあげて選ばせる。
2. 最初から英語で、というのは難しい生徒が多いため、日本語で原稿の大筋を書く。
3. 日本語の原稿をチェックし、英語に直すよう指示する。
4. 英語に直すのが難しい場合、教師がサポートする。
5. 英語の原稿をチェックする。
6. 発音･イントネーションなどの指導をする。（この後、ペアによる発表練習を設けるとよい）
7. 黒板の前で発表させ、聞き手にも評価させる。
8. 発表が終了した生徒から、原稿を提出させて評価に加える。

オーラル･コミュニケーションの授業においては、以上のような指導手順を踏むのが一般的であり、内容を考えて英文の原稿を完成させるまでが指導上難しい部分である。発表段階において、堂々とスピーチできる生徒もいれば、内容が疎かになってしまう生徒もおり、全体的に理想的な形に持っていくまでには時間がかかる。

英語Ⅰでは、中学校の授業形態が身に付いているので、授業中、英語を話すことにあまり抵抗を感じない生徒が比較的多かった。1年生の段階では、特に教科書に出てきた基本文などを中心に暗唱させたり、一部だけ自分自身の内容を加えて発表させたりすることでスピーチに慣れさせたい。また、できるだけ多くの音読をする時間を増やしていきたい。声を出す練習をさせる方法として次に示すいくつかの方法を試みた。

･個人的（または列ごと）に指名してパラグラフごとに音読させる。
･前の人がどこを読んでいるか意識させ、1人1文ずつ、途切れないように全員続けて音読させる。
･会話形式の場合は、1人を指名し、相手を自分で選ばせて2人で音読させる。

クラス全体で教師のあとに続いて読ませる場合は、生徒はなかなか声を出そうとしない。しかし、個人的に指名した場合は、ある程度声を出して読める生徒もいる。1人ずつ音読のテストを行ってから、スピーチさせるという手順もあるが、授業中に個人指名をした際に、できるだけ多くの生徒に読む機会を与え、その時点でどのくらい読めるのかをある程度は判断したい。暗唱の場合は、指定した部分を覚えた生徒から順番にチェックしたが、完全に覚えて感情を込めて言う、という段階まで進まないのが現状であり、ペア活動による練習時間を授業中に設ける必要があると感じた。

3　定期考査について

英語Ⅰやライティング、リーディングの定期テストは、考査の時間割の中で実施している。オーラル・コミュニケーションの考査は、通常の授業で実施し、スピーチなどを試験として行うことが多くなってきた。

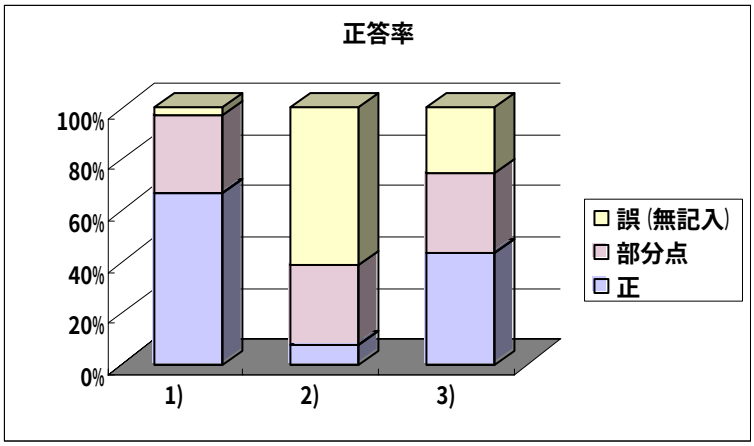
英語Ⅰでは、ノートや提出物、小テスト、口頭による発表なども評価の対象とした。また、授業中の表現活動が定期考査に活かされるように工夫している。さらに授業中、一度学んだ本文のパートを復習として穴埋めをさせたり、終了した単元の内容を再度リスニングさせたりした。また、単語は小さな単元が終わるごとにパズル問題のようなものを用意し、学習事項を確認しながらもう一度単語を自分で書くという作業をさせるようにした。定期考査は評定の主要な部分であり、定期考査を活用して学習内容の定着を図ることが重要である。　また、学習目標として、「この表現は必ず使えるようにしてもらいたい」、「この単語は書けるようにしてほしい」と、生徒に伝えておき、通常の授業においても常に目標を意識させることで、定期考査の結果に結び付くように工夫した。

「定期考査における工夫」の(2)について、英語Ⅰでの正答率と誤答例は以下のようになっている。

IX. 以下の質問に英語で答えなさい。
1) Have you ever been to Okinawa?
2) Where were you brought up?
3) How do you come to school?

正答率　(39人中)

	正	部分点	誤
1)	26	12	1
2)	3	12	24
3)	17	12	10



(誤答例)

1) ・ I haven't never been to Okinawa.　(not と never)
　・ I am never gone to Okinawa. (be 動詞の混入)
　・ No, I have. (not の欠落)
　・ Yes, one Okinawa. (未完結文)
2) ・ I brought up in Ashikaga.　(was の欠落　10名以上)
　・ No, I wasn't. / Yes, I was.　(不適切な回答)
　・ I____ brought up from Ashikaga. (in ではなく from／was の欠落)

3) ・ I'm come to school by bike. (be 動詞の混入)
・ I come to school is by bike. (is の混入)
・ I come school by bike. (to の欠落)
・ It's 30 minte. / I'm very happy. (不適切な回答)
・ I'm go to bike. (不完全な文)
・ wark (単語のみ。おそらく walk と書きたかったのであろう。)

生徒は授業中に発表し暗唱した内容は覚えている。今後も、表現活動を取り入れて、学習効果を上げていきたい。

誤答を見て非常に気になる部分は、「一般動詞」と「be 動詞」を使い分けることができない生徒が多いということである。日常的に英作文をさせても、"I'm go to Tokyo." や " I am have a dog." などと書いてしまう。また、"I like best is soccer." のように答える生徒もおり、「～は、～が」等の意味で"is"を使わずにはいられない様子も見受けられる。 日本語の訳に合わせようとする結果、そのようになってしまうのだと思われる。英語の正しい言い回しがより自然に身に付くように、授業においてスピーチ活動や英問英答の機会を増やしていきたい。

4 アンケート

英語Ⅰのクラスを対象に、アンケートを実施した。4 月と 12 月に同じ内容のものを行い、変化を見た。基本的な項目は5つで、以下のような形式で行った。

(授業で実施したアンケート)

Questionnaire ＜ 1 年生対象 ＞ 12月

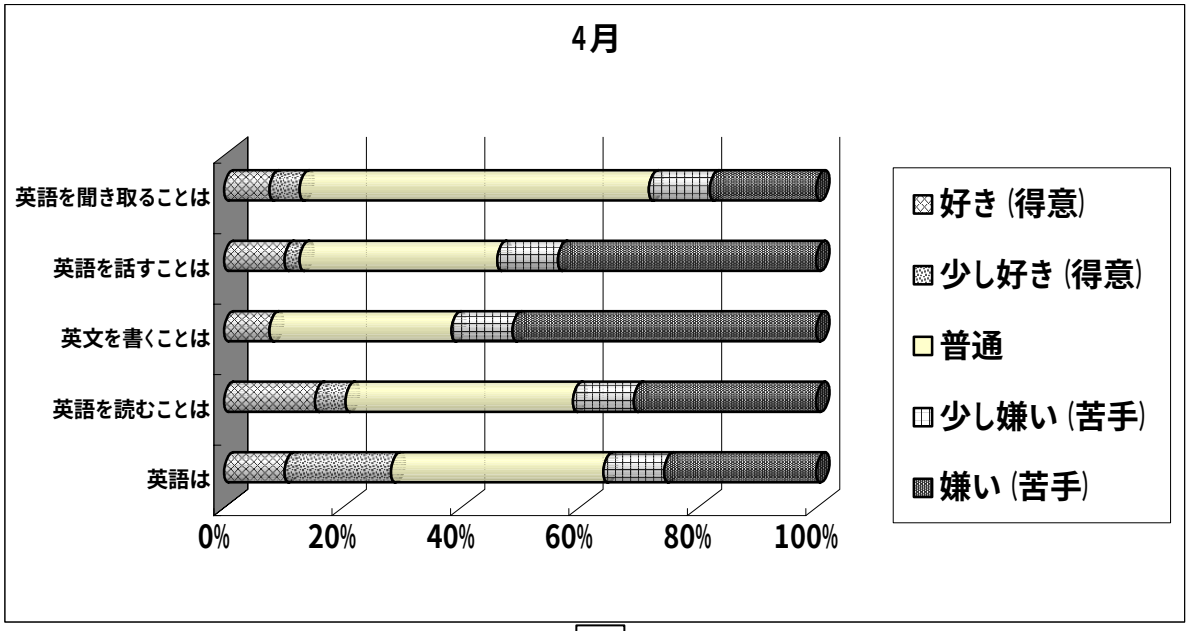
4月に行ったものと、おなじ内容です。以前と比べて、どうでしょうか。

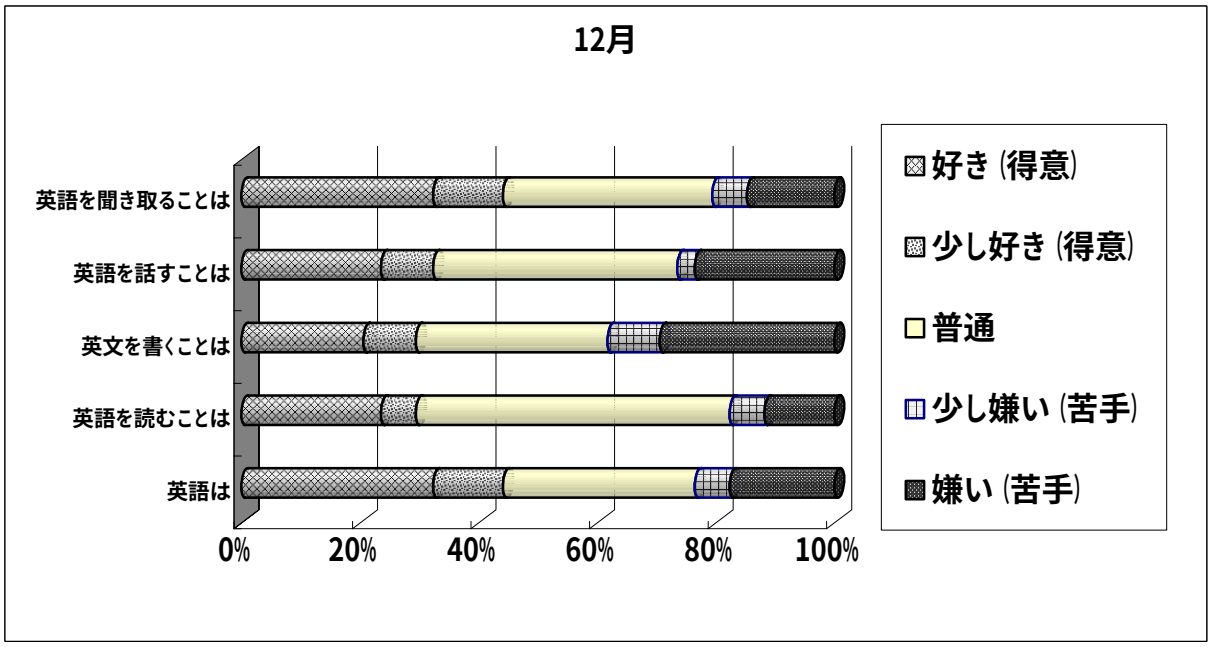
以下の質問に答えてください (もっとも当てはまる位置に○印を付けてください)

	好き (得意)	普通	きらい (苦手)
1) 英語は・・・・	＋----------	＋----------	＋
2) 英語を読むことは・・・・	＋----------	＋----------	＋
3) 英語の文を書くことは・・・・	＋----------	＋----------	＋
4) 英語を話すことは・・・・	＋----------	＋----------	＋
5) 英語を聞き取ることは・・・・	＋----------	＋----------	＋

どのくらい好き (得意) と感じるか、また嫌い (苦手) と感じるかを5段階程度に分けて記入させた。英語について「好き」と「得意」、また「嫌い」と「苦手」という言葉をそれぞれ同じように提示してしまったので、英語は「好きだけど苦手」という場合の記入に迷った生徒もいたようである。 他にも、「英語Ⅰで行った暗唱・発表など」や、「英問英答」についての質問も設定した。それらについて生徒の感想をいくつかまとめてみた。

まず、4 月及び 12 月の回答状況は以下のようになっている。対象生徒数は 39 名。





スピーキングを中心に指導してきたが、話すことはやはり難しいようであった。意外だったのは、「聞き取れるようになった」と感じている生徒が増えたことである。これは、英問英答では、質問を聞き取らないと答えられないことに関係しているのではないかと思われる。わずかではあるが、全体的に「少し英語が好き(得意)」と感じるようになった生徒が増えたことは、よい傾向である。一方で、「英語にやる気がおきない」、または「覚えられないので発表や暗唱は辛い」という生徒もいる。苦手意識を克服させるためにも、今後も指導を工夫していくことが必要である。

その他の質問項目として、「発表･暗唱」について、また「英問英答」についてなどを設定した。黒板の前で発表することについては、「大変だけどやってみてよかった」「練習をするので覚えていることも多い」「次の発表はがんばりたい」などの前向きな意見が多かった。一方で、「緊張するからやりたくない」「ちゃんとできない」というよ

うな否定的な感想もあり、少しでも慣れさせていきたい。授業の最初に復習を兼ねて行っている「英問英答」については、「授業をちゃんと聞くようになった」、「質問文の最初の単語を聞き取るように集中したい」、「先生がヒントをくれればなんとか答えられる」などと前向きな感想があった。中には「質問されても意味不明」といった感想もあり、自信や意欲的な態度を育てる工夫が必要であると感じた。

5　今後の課題

目標と指導と評価を一体化させるためには、継続性のある指導が必要である。また、同一科目を複数教員で担当する場合は、担当者間で出題の方針や内容について共通理解を図る必要がある。本研究では、スピーチ活動を中心に行ったが、「話すこと」・「聞くこと」・「読むこと」・「書くこと」の 4 つの技能は相互に関連しているものであって、授業から定期考査までを通してバランスよく学習させたい。

指導事例２　英語Ⅱ（第３学年）

Ⅰ　学習指導計画

教科書：*NEW WORLD English Course Ⅱ* Lesson 9 Bananas Speak（三友社）

１　単元の目標　〔　〕内の記号は評価規準との関わりを示す。

(1)日本とフィリピンとのバナナ貿易を論じた英文を、教科書用 CD を聞きながら読み、南北問題を自分自身と結びつけて読み取り、自分の考えを表現できる。〔A2, B3, C1, C3, D2〕

(2)正確及び適切な音読を通して、内容を理解する。　〔A1, B1, B2, C2, D1〕

(3)暗唱を通して学んだ重要表現を用いて、自分について表現する力を養う。〔A2, B3, B4〕

２　単元の評価規準

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
A1 音読や暗唱に積極的に取り組んでいる。 A2 間違いを恐れず自分の考えなどを書いている。	B1 正しいリズムやイントネーションを用いて、音読したり暗唱したりすることができる。 B2 文章の意味や作者の意向を考えて適切に音読したり、暗唱したりすることができる B3 伝えたい情報や考えを正確に書くことができる。 B4 伝えたい内容、場面に応じて語句や表現を選択し適切に書くことができる。	C1 聞いた内容について概要や要点を把握することができる。 C2 書かれた内容について正しくしく読み取ることができる。 C3 読んだ内容について概要や要点を把握することができる。	D1 「読むこと」に用いられる語句や文法を知っている。 D2 南北問題について理解することができる。

３　単元の指導計画

時間	該当箇所	学習内容	評価規準とのかかわり	評価方法
1 2	Part 1,2,3	日本のバナナ輸入の概要をつかみ、自分自身と結びつけて考える。	A1, A2, B4, C1	観察 ワークシート
3	Part 1	バナナ輸入史を説明する文章の聞き取り・読み取りを通して、重要表現を学ぶ。	A2, B1, B3, C2	〃
4	Part 2	バナナ生産の現状を説明する文章の聞き取り・読み取りをし、重要表現を学ぶ。	〃	〃
5	Part 3	南北問題を説明する文章の聞き取り・読み取りを通して、重要表現を学ぶ。	B1, B3, C2, D2	〃
6	Part 1,2,3	正確、適切な音読(暗唱)を心がけて練習する。	A1, B1, B2	ワークシート
7	まとめ	本文の内容を復習し理解を深める。	C1, C2, C3, D2	〃
8	Exercise	練習問題で語句・文法の定着を図る。	D1	〃
9	全体	音読テストで表現力を養う。	A1, B1, B2	音読テスト

４　授業展開例

指導過程（Ａ）－１時間目－

【指導目標】

「日本のフィリピンからのバナナ輸入」を論じた英文を読み、本文の内容と自分自身を結びつけて読み取ることができる。

【活動の手順】

・本文を読む前に、生徒の背景となる知識を高めるための発問をし、生徒の学習意欲を喚起する。
・本文の内容についてＱ＆Ａを行い、目的を持って読む姿勢を育てる。
・生徒同士でペアをつくり、相手と歩調を合わせて音読する。
・本文に出てきた重要表現を用いて、自分について表現する。

T: How are you getting?　Are you fine?　I am a little hungry because I skipped breakfast.
So, I'd like to eat bananas.　We are going to talk about bananas in today's lesson.

T: Now I'd like you to answer the following questions before reading the textbook. Question 1. How many bananas do you eat in a month?　Question 2.　Where do bananas come from?
Question 3.　What kinds of food are made of bananas?　Question 4.　What would our life be without bananas?　(質問を板書し、ペアで質問し答えさせる。その後、生徒を指名し質問に答えさせる。)

T: Now you're going to listen to the CD.　You can read the textbook while listening.　Find answers to the following questions.　１．フィリピン産バナナは日本では何%以上を占めているか？　２．フィリピン産バナナはどんなところで生産されているか？　３．バナナ生産に携わる労働者の賃金はいくらか？　４．どうして低賃金なのか？　You can discuss the answers with your partners.　OK. Listen to the CD. (CD を流す)

T: Did you find out the answers?　Let's check vocabularies. (新出語彙の意味を確認する) Let's read the textbook again. (CD を流し本文を読ませる)

T: OK.　Did you understand?　Now I'll give you some hints. (答えのヒントを出す)　Let's read the textbook once again. (CD をもう１度流し本文を読ませる)

T:　I'm going to ask the answers.　Who found out the answer to question No. 1? (他の質問にも答えてもらう)

T:　Now let's read aloud the textbook.　Repeat after the CD.　Are you ready?

S:　(CD を聞きながら音読する)

T:　(机間指導をして生徒が読めない箇所を見つけ、この後、音声指導をする)

T:　Now, please make pairs.　You're going to do the shadowing. (１人は教科書を閉じてパートナーの読む声を真似し、もう１人は相手のことを考えながら教科書を音読する。チャンクごとに切ること、リズムに注意することを伝える。)

T: 今日の重要なポイントは、「～につき」という意味の“ a ”と“ per ”です。たとえば、僕の場合なら、次のような表現ができます。As a college student, I used to take a bath once a week.　みんなはどうかな？　自分のことから、“ a ”や“ per ”を使って表現をつくってみよう。(次のようなワークシートを配る)

Class:　　No:　　Name:

Picture

S:　(例文を書く)

T:　(用紙を回収する。次の授業で良い作品をいくつか紹介する。)

指導過程（B）－４時間目の一部－

【言語材料】主語＋be 動詞＋補語(節)

【指導目標】実際のコミュニケーションで起こりそうな場面で、主語＋be 動詞＋補語(節)を使って自分に関連した事柄を表現できる。

次の対話文を教師が一人二役で話す。

Close your textbooks and notebooks. Look at the blackboard. Imagine you have a girl you like. After school you have a talk with a friend about her. You and Your friend speak only English. Imagine the following situation.

（生徒） You know Keiko, don't you?

（友達） Yeah, she is very cool and beautiful. What's up?

（生徒） I asked Taro to introduce me to her, because he said he knew her very well. But....
でも、(①実は、彼は１度も彼女に会ったことがなかったんだ＜板書する＞)

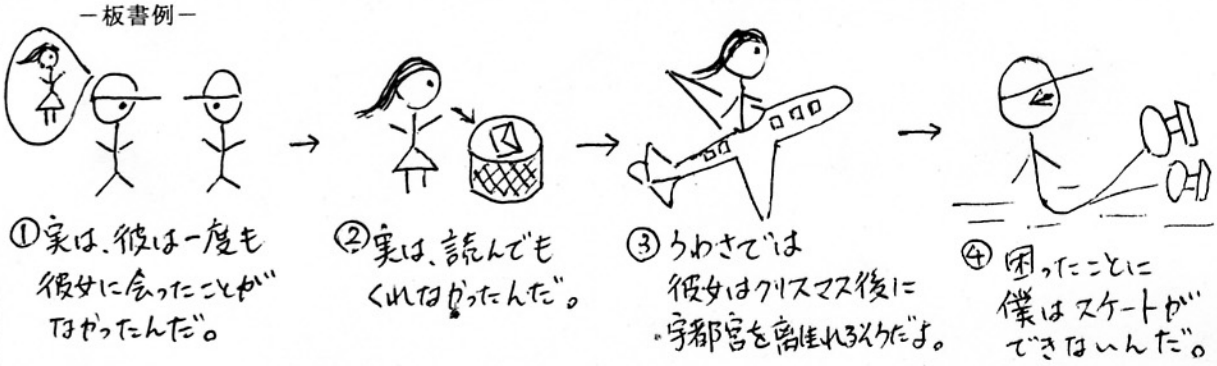
（友達） That's too bad.

（生徒） Then, I tried writing to her, but she didn't reply. (②実は、読んでもくれなかったんだ＜板書する＞)

（友達） Uh.... (③うわさでは、彼女はクリスマス後、宇都宮を離れるそうだよ＜板書する＞) Ask her for a date on the phone right away. What about skating? I hear she is good at skating.

（生徒） That sounds good, but (④困ったことに、僕はスケートができないんだ＜板書する＞)

－板書例－



板書した①～④までの表現をみんなだったら、どう表現するか考えてみよう。間違ってもいいから前に出て黒板に書いてみよう。(生徒を４名指名する)

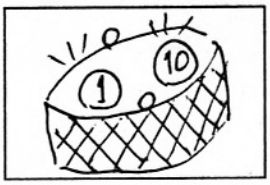
生徒が板書を終えた後、日本語の部分を英語に直して、もう一度スクリプトを教師が読んでみる。

間違いを生徒に気づかせ、訂正させる。

■表現活動

下のようなワークシートを配り、今日学習した表現を使って、各自が自由にいろいろな場面を考えて英語表現を作らせる。絵や解説をつけることを勧める。次の時間に紹介する。

Class: No: Name:



I wanted to go to the movies with Hanako, but the problem was I hadn't brought enough money.

Ⅱ　授業における評価方法の工夫

前述の授業展開例（指導過程Ａ，Ｂ）のように、授業の最後に自己表現活動を促すワークシートを配り評価した。良い作品は印刷して生徒に配布したり、教室の掲示板に貼ったりしてお互いに学び合う材料にした。

【音読テストの実践例】

授業中には、Read and Look Up 専用に、本文をセンタリングしてプリントしたものを配布した（下図）。チャンクごとにセンタリングすることによって、スムーズに視線を移動できると考えた。また、Ken の発話に斜字体を用いることで、Lisa と Ken のそれぞれの発話を明確に分けた。

Read and Look Up

Lesson9　Part 1

Lisa : Do you know where this banana comes from?
Ken : From the Philippines?
Lisa : Right!
Today more than 70 percent of the bananas in Japan come from the Philippines.
Ken : More than 70 percent?
Lisa : Yes. The first Philippine bananas were imported into Japan in 1968.
And their share of the Japanese banana market once reached more than ninety percent.

さらには、Read and Look Up のテストを行うことによって、指導内容と評価内容の一体化を図った。

テスト時に、次のようなカードを配布し、音読テストと共に、自己評価もさせた。

Lesson 9 音読テスト英文

※下に書いてある英文を Read and Look Up 形式で読みなさい。

YOU : Do you know where this banana comes from?
TEACHER : From the Philippines?
YOU : Right! Today more than 70 percent of the bananas in Japan come from the Philippines.
TEACHER : More than 70 percent?
YOU : Yes. The first Philippine bananas were imported into Japan in 1968. And their share of the Japanese banana market once reached more than ninety percent.

自己評価：	①適切な大きさの声で読むことができた。	[4　3　2　1]
ポイント	②正確なイントネーション、発音で読めた。	[4　3　2　1]
	③感情を込めて読むことができた。	[4　3　2　1]

実際に実施してみると、生徒たちは一生懸命取り組んでいた。テスト後、話を聞いたところ、適度なプレッシャーもあり、やってみてよかったという感想が多かった。しかし、Read and Look Up 形式でという前提があったにもかかわらず、終始、用紙を見て読んでいるだけの生徒が多かった。今後、次のように改善していくことが有効であろう。

１．音声を通して文の意味を理解できるまで口頭練習させる。書きながらでは声が出ないので、筆記用具を持たせず、文字に頼らずに練習させる。
２．時間を与えて口頭練習用の英文を書かせる。その際、机間指導をして質問を受ける。
３．音読テストの前に、ペアで練習する十分な時間を設定する。
４．生徒３～４名ずつのグループで相互評価させる。

次の段階では、キーワードをもとに内容を思い出しながら、テキストを暗唱する活動へと発展させる。

III　ペーパーテスト(定期考査)の工夫

＜出題例１＞ －表現の能力に関する設問－

日本の店頭にあるエビ(shrimp)のうち 87%が輸入である。主な輸入相手国はインドネシア(Indonesia)である。インドネシアにおける冷凍工場の労働者の賃金は、１日 100 円～200 円。日本でのスーパーの価格は 20 尾で 1,000 円である。この現状を述べた後、教科書に書かれていたバナナ貿易の問題点を参考にして、エビ貿易の問題点について 50 語程度の英語で自由に述べなさい。

評価ポイント　(1)書いた量　　[4　3　2　1]
　　(2)わかりやすさ　[4　3　2　1]
　　(3)英語の正確さ　[4　3　2　1]　／12

この問題は、教科書で扱ったバナナの輸入問題と共通の問題点をもつ「エビ輸入の現状」について出題した。設問に評価のポイントを載せて評価の方法を示した。

＜出題例２＞ －理解の能力に関する設問－

これはリスニングの問題である。今から英語の文章が読まれるので、それを聞き、下の問いの(　　)内に数字を入れなさい。なお、算用数字で解答してもよい。【２点×５】

１．たくさんのバナナが台湾から日本に輸入されていたのは１９（　　）年代である。
２．１９７５年には、日本はフィリピンから（　　）トン以上のバナナを輸入していた。
３．プランテーションで働く人たちの日当は（　　）円である。
４．彼らが１キロのバナナを生産して得られるお金は（　　）円である。
５．我々日本人がスーパーでバナナを買うと、１キロ当たり（　　）円である。

※読まれるスクリプト

Do you like bananas?　Do you know where the bananas come from?　More than 70 percent of the bananas in Japan come from the Philippines.

In the 1960s Japan imported a lot of bananas from Taiwan.　Japanese people liked bananas very much.　So American fruit companies began to grow bananas in the Philippines.

The first Philippine bananas were imported into Japan in 1968.　In 1975 Japan imported more than 700,000t of bananas from the Philippines.　Their share of the Japanese banana market once reached 90 percent.

Philippine bananas are grown on plantations. What are plantations? It is a big farm where bananas are grown only for export.

The workers on the plantations work for very low wages. Their wages are 500 yen a day. When the workers produce 1kg of bananas, they get 2.5 yen. Between the Japanese people and the banana plantations there are big fruit companies, their subsidiary companies, trade companies, whole sales and supermarkets. When the Japanese people buy bananas at a supermarket, the price is 250 yen per 1kg.

このスクリプトは、授業で扱った題材にいくつか新たな情報を付け加えて、書き直したものである。授業においては、数詞・年号・小数・分数の音読練習を行った後、上記のスクリプトに関して(　　)内に適語を補充する形式で実施した（その時には、数字以外の部分も空所にした)。

定期考査では、数字に焦点を当てて出題した。授業中に行ったときと比べて、定期考査のほうが得点率が高かった。中には数字を覚えていて得点した生徒もいたが、定期考査後のアンケートで授業と定期考査について聞いたところ、「音読練習に取り組むようになってから、英語の音が聞き取れるようになってきた」という意見が多く見られ、音読練習の効果があったと思われる。

＜出題例３＞ －知識・理解に関する設問－

次の会話文からは、ア～オの語が削除されています。それぞれの語が本来どこにあったのか指摘しなさい。（本来あった位置に戻した場合に、その前と後ろに来る語を書くこと）　【２点×５】

ア　because	イ　few	ウ　found	エ　low	オ　why

Ken : Can you tell me so many Philippine bananas are imported into Japan?

Lisa : I think it is of some American fruit companies. They have banana plantations in the Philippines. They Japan was the best market for them and expanded their plantations.

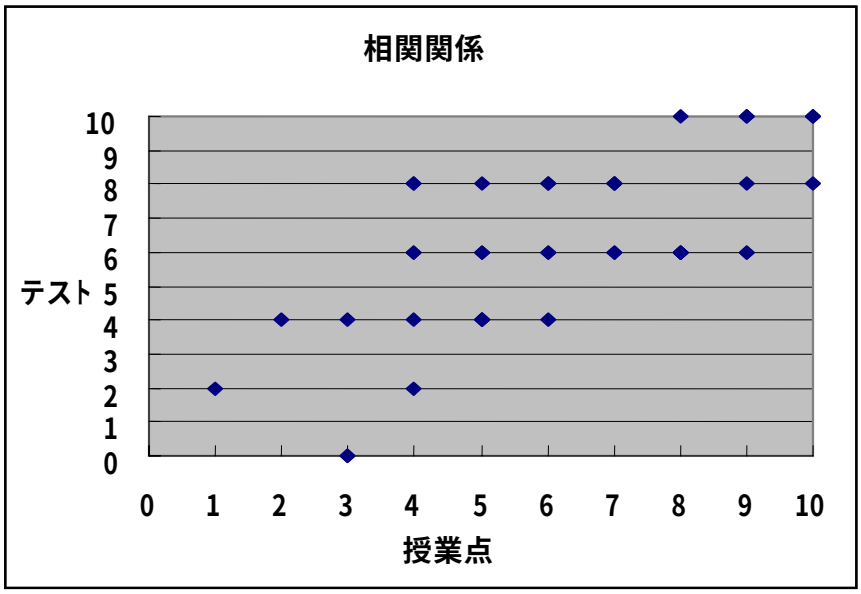
Ken : Why did they choose your country for growing bananas?

Lisa : Because we have plenty of rain but typhoons. And many people on the plantations work for very wages.

Ken : Oh, really?

Lisa : Yes.

授業中における音読の取り組み状況と、この大問(出題例３)との相関関係を調べてみると、下表のように相関がみられた。



縦軸は、出題例３の得点(１問２点)を示す。

横軸は、普段の授業における音読活動の観察を通して 10 段階で評価した。毎時間(10 時間)に、取り組み良好な生徒にはプラス１点を加算し評価した。

【普段の授業時において利用した音読観察シート（教師用）】

		15 ○○○○	10 ○○○○○ ○○○○	5 ○
23 ○○○○○	19 ○○○○○ ○	14 ○○○○○ ○○○	9 ○○○○○ ○○○	4 ○○○
22 ○○	18 ○○○○○ ○	13 ○○○○○ ○○	8 ○○○○○ ○○○○○	3 ○○○○
21 ○○○○○	17 ○○○	12 ○○○○○ ○	7 ○○○○	2 ○○○○○ ○○○○○
20 ○○○○	16 ○○○○○ ○○	11 ○○○○○	6 ○○○○○ ○○○○	1 ○○○○○ ○○○○

○はプラス１点を示す

Ⅳ　考察・まとめ

１学期は主に訳読を中心に授業を進めていたが、２学期から表現活動を取り入れ、かつ音声を重視した授業形態に変更した。そのため、最初は生徒たちにも戸惑いが見られたが、次第に意欲的に授業に取り組むようになった。定期考査を振り返ってみると、授業中に一生懸命に音読練習をしている生徒は定期考査でもよい結果をあげていた。

また、定期考査後のアンケートの結果、次のような授業に関する感想が出された。

・教科書の本文が以前よりも覚えられるようになった。
・授業が楽しくなってきた。
・英語が嫌いな人もこれなら好きになれると思う。
・慣れない部分もあり難しかったが、発音などをやったほうがいいと思うのでこのままでいい。
・前と違うやり方だけど、個人的にはいいと思う。
・英文を読むことは自分の身に付くからいいと思う。
・音読によって暗記力・会話力が身に付いていい。
・読んだり書いたりしたことが増えたので、そこはいいと思う。
・今までよりも英語を勉強している感じが強くする。
・英語を使ったミニゲームをやってみたい。
・音読テストではうまくしゃべれたか心配だが、いい経験になった。
・授業が正直やりにくい。
・テストが難しかった。

感想を書いてくれた大半の生徒がプラスの評価をしている。中には、授業がやりづらいので、もとの訳読形式に戻して欲しい、ということを書いた生徒もいた。訳読式の授業に慣れていた生徒たちなので、そのような感想が出てくることも理解できる。しかし、多くの生徒が表現活動や音読を取り入れた授業に何らかの期待を示しているので、今後も音声を中心に指導し、生徒全体に表現活動の意義を浸透させていきたい。

また、音読を取り入れた授業によって、英語の音声が聞き取れるようになってきた生徒が増えてきているので、音読とリスニングは密接な関係があると実感できた。今後、さらに表現活動やペアワーク、相互評価を取り入れてクラス内に生徒同士の相互理解と信頼関係を養いたい。

指導事例３　**英語Ⅱ（第３学年）**

Ⅰ　学習指導計画

1　プロジェクトの目標

〔　〕内の記号は評価規準との関わりを示す。

(1) 英語版「観光案内パンフレット」作成を通して、基礎的表現を定着させ自己表現を奨励する。〔A1, A2, A3, B1, B2, D1〕

(2) 共同学習を通して、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。〔A4, B3, D3〕

(3) 地元の産業について理解を深める。　〔D2〕

2　目標の設定理由

英作文のトピックを、生徒たちの地元である「那須の観光地」とした。那須は有数の観光地であり、外国からの観光客も多数訪れる。そのような観光客を対象に、生徒たちの体験談を含んだ観光案内の配布を考えた。外国人の観光客に那須を紹介する活動を通して、生徒自身の地元理解になると考えた。また、相手を意識して書くことで、生徒の学習への動機付けにもなると考えた。

3　プロジェクトの評価規準

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
A1 自ら学んだ表現や進んで集めた情報などを使い書いている。 A2 必要に応じて辞書などを活用している。 A3 自ら進んで書いたものを読み直し、意欲的に書き直したりしている。	B1 伝えたい情報や考えを正確に書くことができる。 B2 伝えたい内容、読み手、目的に応じて、語句や表現を選択し適切に書くことができる。		D1 文字や符号などを使い分ける知識を身に付けている。 D2 地元の産業等を理解している。
（発表時の評価規準） A4 理解してもらえるように別の表現で言い換えたり説明して伝える工夫をしている。	B3 伝えたいポイントを整理して発表することができる。		D3 ジェスチャーや非言語的コミュニケーションの役割や用い方を理解している。

4　プロジェクトの指導計画

月	時数	学習目標	生徒の活動	評価規準との関わり	評価方法
10	1	・プロジェクトの目的を理解する。	・プロジェクトの趣旨を理解し５人程度のグループを作り、テーマを設定する。役割分担の決定。	D2	観察
11	1	・共同作業の趣旨を理解し協力する。	・観光案内や雑誌、情報機器を利用して各自のテーマについての情報を収集する。また、直接現地に赴き担当者や観光客にｲﾝﾀﾋﾞｭｰするなど、できるだけ「生」の情報を集める。	A1, D2	観察 ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ
11中取材する					
12	2	・基礎的な表現を定着させ自己表現を奨励する。	・入手した情報をまとめ、文章化する。	A1, A2, B2	観察
	1		・地図や写真、文章をレイアウトする。	B1, D1	観察
	1		・文章、レイアウトを校正する。	A2, A3	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ
	1	・地元の産業について理解を深める	・班ごとに発表し、自己評価、相互評価、アンケートを実施する。	A4, B1, B2 B3, D2, D3	自己相互評価 ｱﾝｹｰﾄ

5　本時(最終日)の目標

① 自分の集めた情報や考えを整理して、聞き手に分かりやすく発表する力を養う。
② 発表者の述べた内容について、確認したり説明を求めたりして、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

6　授業実践(最終日)の指導過程

段階	学習活動・内容	生徒の活動	教師の指導・支援	評価方法
導入 ・ｳｵｰﾑｱｯﾌﾟ (10 分)	・あいさつをする。 ・那須の観光地について質問する。	・あいさつをする。 ・挙手をして英語で答える。	・あいさつを通じ英語を話しやすい雰囲気を作る。	
展開 (30 分)	・各班に分かれて発表準備をさせる。 ・「那須の観光地」の発表についての諸注意をする。 ・発表の模範を示す。 ・評価票を配付。 ・班ごとに発表させる。	・各班で役割を分担し音読練習をする。 ・発表の段取りを理解し、発表の準備をする。 ・自分たちの発表の参考にする。 ・各観点ごとに、発表者の評価の準備をする。 ・班ごとに発表する。発表者以外は発表者に集中し、評価票に基づいて評価する。	・机間指導をしながら発表準備の支援をする。 ・生徒が分かりやすく説明できるように支援をする。 ・発表例を示す。 ・評価の仕方を説明する。 ・発表しやすい雰囲気を作る。	・評価票で教師が班ごとに評価する。 ・評価票に基づいて自己評価・相互評価する。
まとめ (10 分)	・反省と振り返り	・アンケートに答える。	・コメントをして、次回の活動へ向けて意欲を喚起させる。	・プロジェクトの振り返りをする。

II　指導と評価の工夫・改善点

① 共同学習(Cooperative Learning)を導入し、工程表型のシラバスを作成した。いつまでに取材、レイアウト、校正するかを考えた。さらに、制作の途中で共同で作業することを通して、人と人とが協力してことばを学ぶ過程を大切にした。
② 「将来、きっと必要になるから学んでおこう」という学習観から「必要な時に、それに即応して学ぶ」という学習観を導入した。
③ 「意味ある場面で意味ある言語活動」の視点から、ホテルの観光案内コーナーに作成したパンフレットを置いてもらうという前提で始めた。
④ 情報機器(コンピュータ)を活用した。
⑤ 単なる英語版のパンフレットにならないように生徒による手作りを奨励し、実際に取材したりする工夫を奨励した。
⑥ 作成した観光案内パンフレットを相互評価と自己評価の対象にした。
⑦ 作成段階で集めた段階的資料をファイルさせて、学習の振り返りができるように指導した。

【最初の授業時に配布したプリント】

私たちの地元、観光地である那須を外国人に紹介しよう！！！

●私たちの地域社会である那須は、温泉をはじめ、ホテル、ペンション、レストランや様々なレジャー施設で有名です。これらの施設について外国から来た人たちにもっと理解してもらえるように、英語版の観光案内を作成したいと思います。つきましては、那須の観光案内や観光雑誌、パンフレット、情報機器（インターネットなど）を最大限活用したり、あなたの体験を載せたり、お店の人や観光客にインタビューしたりするなど、あなただけのオリジナルパンフレットを作成してください。

方　　法：①那須の観光地からテーマを１つ選び、外国人に紹介する文を作る。
②４～５人のグループを作り、役割を分担する。
③インターネットや雑誌、自分の体験や調べたことなどの情報を集める。情報を的確に伝えられるよう英語に直し、Ａ４版１～２枚程度にまとめる。
④自分たちや他のグループが作成したパンフレットを評価する。（自己評価・相互評価）

掲載内容：① General Information として、住所、電話番号、営業時間、休業日、料金、駐車場を掲載する。
②写真や地図もあるとよい。
③体験談等を盛り込むなど、読み手が引きつけられる工夫を！

目　　標：①地元である那須について理解を深める。
②相手に自分の思いを伝えられるようなコミュニカティブな英文を作る。
③他ｸﾞﾙｰﾌﾟの発表を聞いて、そのできばえを評価する。

評価のポイント：①グループ内で協力しているか　②進んで情報を集めているか
③英語のつづりや文法は正確か　④指定した掲載内容が正確で充実しているか
⑤工夫があって内容がわかりやすいか（レイアウトも）⑥観光地として行ってみたくなる内容か

【教師用評価シートと教師による評価結果例】（Ａ～ＣでＡを最高とする。）

Group No.	Name	Prepa-ration	Commu-nication Skill	Attitude	Total	Comment
A		A	A	B	B	文句が多いが頑張った
		A	B	A	A	いろいろと取り組んだ
		A	A	A	A	よくやった
		A	A	A	A	よくやった
		A	C	C	C	もっとまじめに
B		B	A	A	A	準備をしっかりやった
		B	B	B	B	準備をコツコツやった
		B	B	A	B	体験談等情報を集めた
		B	B	A	B	〃
		B	B	B	B	はっきり話すとよい
C		A	C	B	B	現地まで足を運んだ
		A	B	B	B	よくまとまっていた
		A	B	B	B	大きい声だった

*評価ポイント

・Preparation・・・・・・・事前の情報収集などの準備ができている。
・Communication Skill・・・発表において、聞き手に要点がわかりやすく伝わっている。
・Attitude ・・・・・・・・発表時の目線、声の大きさ、発音、抑揚などが適切である。
・Total ・・・・・・・・・・パンフレット、発表を総合的にみて満足できる。
・Comment・・・・・・・ 評価項目以外で何か記載することがあれば記入する。

【プロジェクトの最初の時間に生徒に配布したプリント】

SAMPLE

Virtual tours at Nasu-Kougen In Japan

Nasu- Kougen is one of the most popular resorts in Japan. There are many cottages , even the Emperors' cottage. One of the most popular attentions is the □□□□ family farm , pasture and amusement park to you.

This is a famous pasture modeled on the scenery in Switzerland.

写真 or 絵

Shall we go for a boat ride? Usually there is a cool wind blowing on the lake.

写真 or 絵

This is an ultra buggy. You can ride it over any kind of terrain.

写真 or 絵

There is a Western-style railroad.

写真 or 絵

You can pet many different animals.

写真 or 絵

The deer dolls are very popular.

写真 or 絵

＊ If you have toddlers or infants, you should visit here. You have a lot of things to enjoy all day long.

General Information

Phone	(0287)-76-＊＊＊＊
Place	＊＊＊　＊＊＊ Nasumachi
Traffic	It is 10minutes from Nasu IC
Bussiness hours	9:00 ～ 18:00
Regular holidays	Nothing
Charge	¥1,500
Parking	3,000 cars（No charge）

Itamuro Spa

A bath of health and greenery

＊＊＊＊, Momura, Kuroiso-shi call 69-＊＊＊＊ (0287)

The circumference map of a hotel

map

This hot spring is very healthy not only for the elderly but it can be used by everyone.

You can feel the surrounded greenery when you make the peaceful cross over the Nakagawa Bridge to the Itamuro Spa. Since it was built for local promotion and opened on September 6. 1991, its popularity has quickly spread.

The baths here are large and bright. There are handrails located all over the facility so that it is accessible to the elderly.

A Futonawa rope lowers you into a open air bath. Here water runs down a piece of bank making it easy to relax your body and thought.

Inside the hall there is a gym where you can work up a sweat and then relax your body in a traditional "Neyu" or sauna.

Traffic	Train = it is 30 minutes by JR Tohoku Line Kuroiso station from bus 35 minutes, Car = northeast way Nishinasuno Shiobara IC. Bus =It is 35 minutes from Kuroiso station by bus and car.
Charge	Adult = 400 yen Child = 200 yen 65 or more years old = 200 yen
Business hours	April—October =10:00 - 18:30 November- - March = 10:00 - 17:30
Regular holiday	Every other Monday and a public holiday
Bath	Indoors 2 (man 1 woman 1) Outdoors 2 (man 1 woman 1)
Nature of the water from the hot spring	An alkaline simple spring
Effect	The spring helps : Digestive organ disease Neuralgia Rheumatism High blood pressure Muscular pain poor blood circulation and hemorrhoids Joint ache Recovery from fatigue Healthy improvement from Bruises
Equipment	Stand Dining-room RESUTO room Sauna Training room, Conference room
Parking lot	50 spaces

III　考察・まとめ

今回、那須の観光地というテーマで観光案内パンフレットを作成したが、３ヶ月という比較的短い期間での活動の割には生徒たちは互いに協力してよく動き、完成に近いものができたと思う。対象クラスは第３学年の観光に関連する学科であり、実習授業としてホテル実習や郷土観光実習など、多くの観光実習を行っている。そのため、那須にかなり精通している生徒が多く、情報収集は比較的スムーズにできた。しかし、英語に関しては苦手意識を持つ生徒が多く、集めた情報を英語にするときに予想以上に時間がかかった。日頃、授業では会話中心の語句・センテンスを学習しているため、英作文にはあまり時間をかけていないのが実状である。

１　課題への取り組みと評価結果

上記の通り、課題への取り組みは比較的スムーズであった。班の中には雑誌やインターネットなどの間接的な情報を収集するだけではなく、直接、現地に足を運んで情報を収集する生徒もいた。一方で班の編成や役割分担に手間取り、課題への取り組みに遅れがちな班もあった。いかにして主体的な学びへと導くかということが今後の課題と思われる。

生徒同士による相互評価と自己評価を導入した。いずれも個人ごとではなくグループ単位で行った。集計結果は下記の通りである。

【作品に対するグループごとの自己評価の集計結果】

Group	項目１	項目２	項目３	項目４	項目５	総　合	コメント
A	5	4	4	4	4	4	
B	4	3	3	3	3	3	
C	5	5	4	4	3	4	
D	3	3	4	2	3	3	

【作品に対するグループごとの相互評価（A 班による他３班への評価結果)】

Group	項目１	項目２	項目３	項目４	項目５	総　合	生徒からのコメント
B	3	4	3	3	3	3	工夫がもう一つ欲しい
C	4	5	5	4	4	4	体験談がいい
D	3	3	3	2	2	3	レイアウトなど今ひとつ

＊以下の評価ポイントについて５段階で評価

項目１　情報が正確で、充実している。　（５・４・３・２・１）
２　レイアウトなど、内容がわかりやすい。　（５・４・３・２・１）
３　観光地として行ってみたくなる内容である。　（５・４・３・２・１）
４　英文が正確である。　（５・４・３・２・１）
５　創意と工夫がある。　（５・４・３・２・１）

＊生徒が行った相互評価・自己評価は、完成作品について実施したものであり、準備段階及び発表に対する評価ではない。準備段階についての自己評価は、アンケート形式で実施し、活動に対するコメントや反省を自由に記入させた。

【アンケートからの生徒の感想】

・まとめるのが大変だった。
・英訳するのに時間がかかったけれど、誰かに見てもらうという目的がはっきりしていたのであまり苦にならなかった。
・もう少し長期的にやった方がいい。
・グループの班員が休みがちで、うまくできなかった。
・パンフレットにして実際に観光案内所に置いて欲しい。そうすればもっと素晴らしいものを作ろうという意識が強くなる。
・いい経験になった
・那須のことをわかってるようでわかっていなかった。
・普段、英作文についてあまり勉強していなかったので英語に直す作業が地獄だった。
・自分でもよく頑張った。
・イメージが湧かなくて苦労した。

2　今後の課題

（１）共同学習の視点から

人と人とが協力しあって学習するのが理想あるが、どうしても特定の生徒に仕事が集中してしまう。適材適所に仕事を分担し責任を持たせる工夫が必要であった。リーダーが育たなかった班は、班員の納得いく作品ができずに終わってしまう傾向がある。グループ分けにも工夫が必要である。

（２）just-in-time learning の視点から

「英語に直す作業が大変だった」という感想からすると、日頃の学習の重要さを生徒に気づかせることも大切であろう。しかし、アンケートにもあるように、目的をはっきりさせ、誰に対して表現するかを明確にした学習は効果があがることがわかった。常時、外部の目を意識すれば活動意欲も高まり英語学習に役立つと思われる。次回からは、地元の観光協会等に置いてもらえるような完成度の高いものが作れるようにしたい。また、利用した外国人の観光客に感想を求めたり、ニーズを尋ねたりしてフィードバックをする工夫が必要である。さらに、校内新聞やＰＴＡ新聞等への掲載も考えたい。そして、良い作品を役所や駅の観光案内インフォメーションに置いてもらうなど、生徒のやる気を高める工夫が必要である。

今後、自分で写真を撮影したり、地図を作製したりして掲載することが必要である。また、取り組んだテーマは温泉やレジャー施設に限られていたが、名所・旧跡及びお土産品の食べ物（御用邸チーズ、地酒、乳製品、ハム）についても取り上げ、生徒の試食の感想も載せていきたい。

（３）コンピュータの活用の視点から

Web 上に載せて、海外の高校生とお互いの学校紹介・地元紹介や意見の交換へと発展させると、ますます、just-in-time 学習や authentic な言語活動を推進できると考える。教師がさらにコンピュータ技術を習得し、積極的に授業に活かすことが必要である。

（４）評価の視点から

今回行った評価はグループによる相互評価と自己評価のみであった。作成段階で集めた資料や校正前の作品などをファイルさせたが、学習を振り返るという点では不十分で中途半端に終わった。ポートフォリオを有効に活用し、成し遂げた過程を評価することが今後の課題である。

（５）英語を使うという視点から

プロジェクトの最初の２時間は英語を使う必要がないといった大きな問題点が残った。資料収集の段階から、生徒に英語を使用させる工夫が必要である。

指導事例４　**READING（第３学年）**

Ⅰ　学習指導計画

教科書：POWWOW　ENGLISH READING（文英堂）
単　元：Lesson ４ (ATLANTIS, A MYSTERIOUS ISLAND)

１　単元の目標

〔　〕内の記号は評価規準との関わりを示す。

(1) 考古学者が、調査をもとにアトランティスの伝説をクレタ島ミノス王朝の消滅と関連づけて解明していく過程を理解する。〔C1, C2, D2〕
(2) 意味のあるまとまり(チャンク)ごとに、文を読めるようにする。〔A, B1, B2〕
(3) 重要な語句や文法を含む文を暗唱し、重要表現の定着を図る。〔A, B2, D1〕

２　単元の評価規準

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
A　間違いを恐れず音読・暗唱に積極的に取り組んでいる。	B1　正しいリズムや発音で音読することができる。 B2　文章の意味や作者の意向を考えて適切に音読、暗唱できる。	C1　書かれた内容について正しく読み取ることができる。 C2　読んだ内容について概要や要点を把握することができる。	D1　「読むことに」用いられる語句や文法を知っている。 D2　考古学者の仕事とクレタ島文明を理解している。

３　単元の Part 1～Part 6 までの指導手順（各 Part を２時間で実施）

第１時：新出単語の練習、テープリスニング、内容についての英問英答、語句説明
第２時：テープリスニング、語句の説明のつづき、音読練習

４　単元の指導計画

時間	該当箇所	学　習　内　容	評価規準とのかかわり	評価方法
1 2 3	導入 Part 1	アトランティス伝説について概要を紹介した後、アトランティス伝説と、その時代背景について理解させる。	C2,D1 C1,A,B1,B2	観察
4 5	Part 2	プラトンが書いたアトランティスの記述と、その記述はクレタ島ミノス王朝に関係があるとするマリナトスの説を読み、その論旨を理解させる。	C2,D1 C1,A,B1,B2	観察
6 7	Part 3	考古学者マリナトスがクレタ島沖の発掘調査をもとに、プラトンの記述の源を科学的に解明していく過程を理解する。	C2,D1,D2 C1,B1,B2	観察
8 9	Part 4	火山の爆発と津波によって消滅した他の例から、マリナトスの考えた推論の根拠を理解させる。	C2,D1,D2 C1,B1,B2	観察
10 11	Part 5	マリナトスが探索していた海没地点がミノス王朝であるとする調査結果を理解させる。	C2,D1,D2 C1,B1,B2	観察
12 13	Part 6	プラトンの記述にあるアトランティスの位置と、クレタ島の実際の位置との矛盾について、その原因をマリナトスが推論していく過程を理解させる。	C2,D1,D2 C1,B1,B2	観察
14 15	全体	チャンクごとに正しく音読できるようにする。	A,B1,B2	音読ﾃｽﾄ (相互評価)
16	全体	内容・文法事項の確認を図る	C2,D1,D2	ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ

5　本時の目標（Part 3　第７時間）

(1) ある考古学者がクレタ島沖の島を発掘調査することにより、プラトン記述にある失われた文明との関連を推論する過程を理解する。
(2) チャンクごとの音読練習を通して、パート３の内容をより理解させる。
(3) チャンクごとの音読練習を通して、重要な文を暗唱させる。

6　授業実践の指導過程（Part 3　第７時間）

段階	学習活動	生徒の活動	教師の指導・支援	留意・観察項目
導入 2 分	・あいさつ ・英問英答	・あいさつをする。 ・英語で答える。	・あいさつをする。 ・身近な話題を英語で質問する。	・大きな声であいさつさせる。
展開 8 分	・前時の復習	・語句、内容を答える。	・語句、内容を尋ねる。	・ノートに書いたことが理解できている。
15 分	・本時の内容説明	・第２段落の CD を聞く。 ・ノートに書き込みをする。 ・チャンクごとに読む。 ・第３段落をCDで聞く。 ・ノートに語句の書き込みをする。 ・チャンクごとに読む。	・CD を聞かせる。 ・語句説明をする。 ・チャンク読みでﾓﾃﾞﾙ・ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞをする。 ・CD を聞かせる。 ・語句説明をする。 ・チャンク読みでﾓﾃﾞﾙ・ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞをする。	・ノートに英文が書いてある。 ・書き込みができている。 ・チャンク毎に適切に区切って読んでいる。
10 分	・音読練習(全体)	・内容を確認する。 ・チャンクごとに読む。 ・単語を読む。 ・１文ずつ CD の後に続いて読む。 ・CD の後を追って読む。	・CD を聞かせる。 ・難しい単語を拾って読む。 ・１文ずつCDで聞かせる。 ・ｼｬﾄﾞｰ・ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞをする。 ・数名を指名して読ませる。	・聞くだけで理解できている。 ・声が十分出ている。 ・スムーズである。 ・速さは適当である。
10 分	・暗唱	・1 文を暗唱する。	・1 文を指定し暗唱させる。 ・ペアで練習の後、数人を指名し暗唱させる。	・1 文を暗唱できる。
まとめ 5 分	・本日のまとめ ・次回の予告 ・あいさつ	・意味と要点を確認する。 ・あいさつをする。	・暗唱した文の意味と要点を確認する。 ・次回の予告をする。 ・あいさつをする。	・文の意味と要点がわかっている。

II　音読指導における評価の工夫・改善

音読指導は、英文を読む際の基本的な指導法である。ペーパーテストでは音読による「表現の能力」を直接、評価することが難しい。そこで、授業での音読練習の成果を見るために、生徒に評価ポイントを事前に知らせて、授業での音読の練習に意欲的に取り組むための目標とした。授業では内容を理解させつつ、音読の技術を向上させるために様々な工夫をした。

1　音読テストの予告

音読のテスト　について
日　　時　10 月 6 日(月)、7 日(火)
場　　所　美術室、美術準備室
範　　囲　Lesson3 part 3,4,5
　　Lesson4 本文全部
方　　法　5 人 1 組で別室に入り、与えられた英文を音読する。
　　教員のほかにグループの生徒も評価する。

評価ポイント

１．声の大きさ
A　よく聞こえる。
B　何とか聞こえるが聞こえにくい。
C　何を言っているのか聞き取れない。

２．発音の正確さ
A　音やアクセントなどの間違いが 3 つ以内。
B　音やアクセントなどの間違いが多少ある。
C　読めない単語が多い、日本語読みになっている。

３．意味の区切れ
A　意味の区切れで、間を置いたり息継ぎができる。
B　ほぼできる。
C　意味なく途切れる。

４．流暢さ
A　CD と同じくらいの速さですらすら読める。
B　ややおそい。
C　とてもおそい。

５．気持ちをこめて
A　強弱やメリハリがある。
B　重要な箇所がわかり、強く読める。
C　単調である。

2　授業での指導実践例

音読を楽しく､かつ効果的に練習するために次のようなことを工夫した。

(1)まとまり（チャンク）ごとに意味を理解しながら、正しく区切って読む工夫
1 回目：チャンクごとにスラッシュをいれながら読む。
　　難しい語を再度練習する。
2 回目：文ごとに読む。このとき息継ぎは必ずスラッシュのところでするように注意する。
3 回目：コーラスリーディング、またはシャドーリーディングをする。
※　シャドーリーディングのときは CD のリズムに近づくように心がける。
＜感想＞　スラッシュを入れることは、意味を理解する上でも役立つし、音読のときにも大変効果的であった。生徒もスラッシュの意義をよく理解し、積極的に取り組んだ。

(2)マンネリ化を避け、楽しく音読の練習をする工夫
①３人のグループで comprehension check

前回の内容について質問を書いたプリントを配布する。1 人ずつ英文を読み、他の二人は問題の答えを聞き取る。各人が音読を１回、聞き取りを２回することになる。最後に答え合わせをする。
＜感想＞　グループによって差が出てしまった。

②Shadow reading [Teacher-fronted]
CD を聞きながら１,２秒遅れて追いかけて読む。イントネーションやリズムのよい練習になるが、事前にゆっくりと何度か読みの練習をしておく必要がある。
＜感想＞　出来る生徒にとっては、さらに意欲を湧かせる効果がある。ある程度リズムにのって読めるようになってくると、楽しくなってくるようだ。苦手な生徒は初めからやろうとしないことがある。

③Shadowing [Teacher-fronted]
シャドーリーディングができるようになったら、文章を見ないで聞いただけで繰り返す。内容を十分に理解した後に行う。
＜感想＞　実際シャドーイングはかなり難しい。しかし、クラスで何名かは挑戦しようと意欲的になっている。練習していけば、かなりできるようになる。

④Read and Look-up [Teacher-fronted]
教師が読んでいるときは教科書を見ながら、リピートの時には教科書を見ずに、顔を上げて繰り返す。
＜感想＞　チャンク読みの段階で行うとよい。声が小さく元気のないときに使うと効果が上がる。顔を上げることで声量が増す。

⑤教科書を閉じての Repeating [Teacher-fronted]
教師のモデルリーディングの後に続いて、チャンクごとに何も見ないで繰り返す。
＜感想＞　暗唱をさせたいときに使うと効果的である。

⑥Randomized range-restricted J-E translation challenge [Teacher-fronted]
教師が日本語を言い、生徒は日本語に合った英文を範囲の中から探して読む。
＜感想＞　範囲の中からランダムに選んで読ませると、生徒の理解度もわかる。生徒にとっては意味を再確認することにもなり効果が期待できる。

⑦Buzz reading
声をそろえず、自分のペースで読む。１分間にどこまで読めるかなど、時間を区切ってできるだけ早く読ませてみる。
＜感想＞　コーラスリーディングに飽きたときに行うと効果的である。

⑧スイッチ読み(2 人組で)
一人が読み、もう一人は文を目で追いながら聞く。教師の「スイッチ！」の掛け声で読み手と聞き手を交替する。
＜感想＞　生徒も楽しくやっているようだ。相手の読みに耳を傾けること、ざわついた教室内で相手によく聞こえるように、はっきり発音しなければならないこと、読めない単語は互いに教えあうことなど、様々な効果が期待できる。

⑨Shadowing pair work
一人が教科書を見ながら相手に気を配り英文をチャンク単位で読む。その直後、もう一人は教科書を持たずにすぐに英語で繰り返す。正しく言えれば OK、次へ進む。正しく言えなければ何度でも英文を読んで聞かせる。

＜感想＞　相手に気を配りながら読むので、その場に応じた適切な読みを体験することができる。

⑩Build-up chunk repetition pair work

一つの段落を、自分が覚えられる範囲(句 or 文単位)で言うが、口に出して言う時は教科書を自分の胸にあてておく。相手は教科書を見ながら正しく言えているかチェックする。一つの段落が終わったら、言う役目とチェックする役目を交替する。

＜感想＞　暗唱練習に役に立つ。

(３)大きな声で音読ができるクラスの雰囲気を作る工夫

- ほめる→生徒がやる気になってくれる
- 机間指導→サボりの生徒への牽制として有効
- 教師も一緒に読む→発音に自信のない生徒もつられて声を出せる
- 姿勢良く→教科書を両手で持たせ顔を上げるだけで音量が全然違う
- 立ち上がって→音読の時間に盛んに書き込みをしたがる生徒も読みに集中せざるを得ない
- 音読の重要性を理解させる→音読に意義を持たせ目的意識を持たせる
- 音読により理解が進んだことを実感させる→やる気が出る

＜感想＞　クラスの雰囲気を常に良い状態に保つことはかなり難しいと思う。趣向を変えて、ペアワークやグループワークをすると、活気が出ることもある。教師に元気がないと生徒の声も小さくなってしまうので、生徒を励ましつつ、自分でも元気良く音読をするようにしている。モデルリーディングの後、生徒が読むときにも一緒に声を出すと、それにつられて、全体の音量もある程度保たれる。声がかれることもしばしばあるが、生徒たちが大きな声で気持ちよく音読をしていたときは、やってきてよかったと実感した。

３　音読テスト

音読カード例　(実際には１０種類の中からその場で１枚を渡し、音読をさせる。)

例１

"My brothers," he began, "we have come a long way with the British. When they leave, we want them to leave as friends.　If we really want to change things, there are better ways than attacking trains or killing someone with a sword.　I want to change their minds, not kill them."

"We will use nonviolent noncooperation against the British," he continued. "If we refuse to cooperate with them, 100 thousand British people cannot control 350 million Indians!　We Indians drive the buses and trains.　We work in the shops, factories, and government offices.　If we refuse to work, the country will stop.　Then the British will have to listen to us."

Lesson 3　POWWOW ENGLISH READING（文英堂）

例２

Atlantis is one of the most mysterious islands in the world.　According to Plato, a large island, Atlantis, sank into the sea long ago.　We cannot be sure where it was, when it sank, or how it sank.　However, the idea that Atlantis really existed is still with us.

People have been trying to find Atlantis through the ages.　On an old map used by Columbus, there are many islands in the seas west of Europe. Among them we can find Antillia.　The early Portuguese and Spanish sailors believed that this might be Atlantis in a different written form and that parts of the island might be found.　This belief was one of the reasons for their journeys.

Lesson 4　POWWOW ENGLISH READING（文英堂）

4　テスト結果

	評価ポイント					換算点	総合
	1	2	3	4	5		
3201	A	A	C	A	C	30	B
3202	A	B	A	A	C	35	B
3203	A	A	A	A	B	45	A
3204	A	A	A	A	B	45	A
3205	A	B	A	A	C	35	B
3206	A	C	C	C	C	10	C
3207	A	A	B	A	C	35	B
3208	A	A	A	A	A	50	AA
3209	A	A	B	A	B	40	B
3210	A	B	A	A	B	40	B
3211	A	A	A	A	B	45	A
3212	A	A	A	A	B	45	AA
3213	A	A	B	A	C	35	B
3214	A	A	B	B	B	35	B
3215	A	C	C	B	C	15	B
3216	A	B	B	B	B	30	B
3217	A	A	B	A	B	40	B
3218	A	B	B	B	C	25	B
3219	A	C	C	C	C	10	C
3220	B	A	B	B	C	25	B
3221	B	B	B	A	C	25	B
3222	A	B	C	C	C	15	B
3223	A	B	C	B	C	20	B
3224	A	A	B	B	C	30	B
3225	B	B	A	A	B	35	B
3226	A	A	A	B	C	35	B
3227	A	C	C	C	C	10	C
3228	A	A	B	B	C	30	B
3229	A	A	A	B	B	40	B
3230	A	A	A	A	B	45	A
3231	A	B	C	C	C	15	B

列の番号は前に示した評価ポイントを表す。
1 声の大きさ
2 発音の正確さ
3 意味の区切れ
4 流暢さ
5 気持ちをこめて

換算点
A=10 点
B=5 点
C=0 点

テスト結果は後日コメントをつけて生徒に個人票として渡した。

5　感想と考察

音読のテストに向けて、授業中から熱心に練習した生徒、しなかった生徒の差が大きく分かれた。テストに際しては、上手に読もうという雰囲気がクラス全体に浸透し、皆、精一杯の力を出したと思う。これが 2 回目になるが､人前で音読をすることへの抵抗はなくなってきていると感じた。日本人特有の語尾を強く読む生徒も少なくなり、シャドーリーディングの効果も見られた。

6　課題

授業中に音読を個別に評価し、記録することは難しい。全体として「元気がなかった」「リズムに乗ってよく読めた」「難しい単語を正しく発音できた」などと毎回コメントするようにしている。個人を指名して読ませるときは、必ず良い点を指摘し生徒のやる気を引き出すようにして、その上で、その生徒に一番ふさわしい助言ができるよう工夫が必要である。

III　定期考査における工夫・改善

1　音読の効果をペーパーテストでも生かすための工夫・改善点

・試験の出題概要をあらかじめ生徒に知らせ、音読の重要性を説き、その徹底を図る。

・英文和訳の問題を減らし、音読の効果があらわれるような問題を出題する。

教室掲示用

リーディング　二学期中間テスト　出題概要

テスト範囲

Ｌｅｓｓｏｎ３　　Ｐａｒｔ３　～

Ｌｅｓｓｏｎ４　　Ｐａｒｔ６　本文　まで

内　　容

- □　発音・アクセント(日頃の音読をしっかりと)
- □　英語の質問に答える(Question 中心)
- □　文章中で日本語に当たる英単語を書く(新出単語中心)
- □　本文中の熟語から空所を埋める
- □　本文中の２，３の段落において、単語を抜き出し空所になっている箇所に単語をうめる(名詞)
- □　文法　関係代名詞非制限用法・比較　(本文中の該当文章を覚えておこう)
- □　空欄に当てはまる節を答える(前後のつながりがわかるように、内容を把握しておこう)
- □　語形変化

2　成果

(1)発音アクセント問題（知識・理解）

1 次の各語について、最も強く発音する部分を記号で答えなさい。(1 点×8)

1. in-dus-try　　ア　イ　ウ
2. co-op-er-ate　　ア　イ　ウ　エ
3. dem-on-stra-tion　　ア　イ　ウ　エ
4. in-de-pen-dence　　ア　イ　ウ　エ
5. mys-ter-i-ous　　ア　イ　ウ　エ
6. re-spect　　ア　イ
7. non-vi-o-lence　　ア　イ　ウ　エ
8. gen-er-a-tion　　ア　イ　ウ　エ

2 下線部の発音が他と違うものを，記号で答えなさい。 (1 点×4)

1. (ア) Pl<u>a</u>to　(イ) b<u>a</u>se　(ウ) volc<u>a</u>no　(エ) p<u>a</u>lace
2. (ア) c<u>ei</u>ling　(イ) pr<u>ie</u>st　(ウ) m<u>ea</u>sure　(エ) sc<u>e</u>ne
3. (ア) b<u>u</u>ry　(イ) p<u>u</u>mice　(ウ) s<u>u</u>nken　(エ) er<u>u</u>ption
4. (ア) t<u>i</u>dal　(イ) m<u>ai</u>n　(ウ) str<u>i</u>ke　(エ) f<u>i</u>nding

正答率

問		正答率(%)	問		正答率(%)
1	1	71	2	1	**77**
	2	**81**		2	**74**
	3	**77**		3	**68**
	4	**84**		4	81
	5	**74**			
	6	**97**			
	7	**35**			
	8	**52**			

平均正答率 72.6%
全体的に良くできた

(2)内容の理解度の問題（理解の能力）

8 本文の内容に合うように、空欄にあてはまる語を下から選び、記号で答えなさい。(1 点×5)

Mohandas Gandhi asked Indian people to use a method of (1) struggle. After the long struggle for freedom, India became an (2) country in1947. Gandhi asked his friend (3) to become the first (4) minister. Gandhi's Ideas have (5) many leaders throughout the world.

あ）independent　い）nonviolent　う）prime　え）influenced　お）Nehru

9 空欄にあてはまる語を下から選び、記号で答えなさい。(1 点×5)

(1) is one of the most mysterious islands in the world. According to (2), a large island, Atlantis, sank into the sea long ago. We cannot be sure where it was, when it sank, or how it sank. However, the idea that Atlantis really existed is still with us.

People have been trying to find Atlantis through the ages. On an old map used by (3), there are many islands in the seas west of (4). Among them we can find Antillia. The early Portuguese and Spanish sailors believed that this might be Atlantis in a different written form and that parts of the island might be found. This belief was one of the (5)for their journeys.

あ) reasons　い)Columbus　う)Europe　え)Atlantis　お)Plato

正答率

問		正答率(%)	問		正答率(%)
8	1	84	9	1	97
	2	84		2	100
	3	100		3	94
	4	100		4	97
	5	81		5	94

生徒が内容を良く理解したと判断した

(3)単語の習得をみる問題（知識・理解）

１０文中の(　　)内の日本語を英語に、(　　）内の英語を日本語に直しなさい。(1 点×14)

Several days later, when Nehru came to see him, Gandhi was very weak from （1.fasting）. Nehru said, "The fighting has stopped, Mahatma. Tomorrow in Calcutta, ten thousand students will be （2.march）ing for peace."

Gandhi turned to his friend and said weakly, "Whenever I lose hope, I remember that all through history love and （3,正義） have always won."

On January 30, 1948, Gandhi was shot and killed. The whole world （4.mourned）the loss of the great leader of nonviolence. However, Gandhi's ideas influenced many leaders throughout the world. For example, Martin Luther King, Jr., who struggled for the （5.権利）of African-Americans in the 1960's, learned much from Gandhi.

Albert Einstein said of Gandhi: "（6.世代 s） to come will not believe that such a man ever walked upon this earth." (以下省略)

正答率

問		正答率(%)	問		正答率(%)
10	1	**90**		8	***65**
	2	**87**		9	***94**
	3	***74**		10	***74**
	4	**77**		11	100
	5	*45		12	*65
	6	***65**		13	*61
	7	***42**		14	***87**

ゴシック体は新出単語であり予告してあったもの。
＊のマークは日本語を英語に直す形で出題したもの。

予告しておいた新出単語については 70 パーセント以上の出来だった。わずかなスペルミスで得点にならない解答が多く、音声では分かっていても書くとなると難しくなる生徒が多いことを示している。

全体として

音読は、単語の発音はもとより、意味を覚える際にも有効であった。さらに、(　　）内、適語補充問題の結果にも現れているように、内容を理解できた生徒が多かった。

試験の出題概要や出題方法がわかっていれば、勉強の仕方や、授業の受け方がわかってくるようだ。しかし「音読ばかりで説明が少ない」「和訳をもっときちんとやってほしい」などの声も聞かれ、音読の重要性について理解していない生徒もいることがわかった。

Ⅳ　考察・まとめ

１　音読指導の意義

授業における音読練習は、本文を十分に理解した後にその理解した内容を音声として発表する表現活動である。音読を通して、内容をよりよく理解させるとともに、生徒の理解度を適切に評価できると考えた。また、音読の技術向上はリスニングやスピーキングにも大いに役立つと考え、音読中心の授業を展開することにした。

２　音読指導の目標とその段階

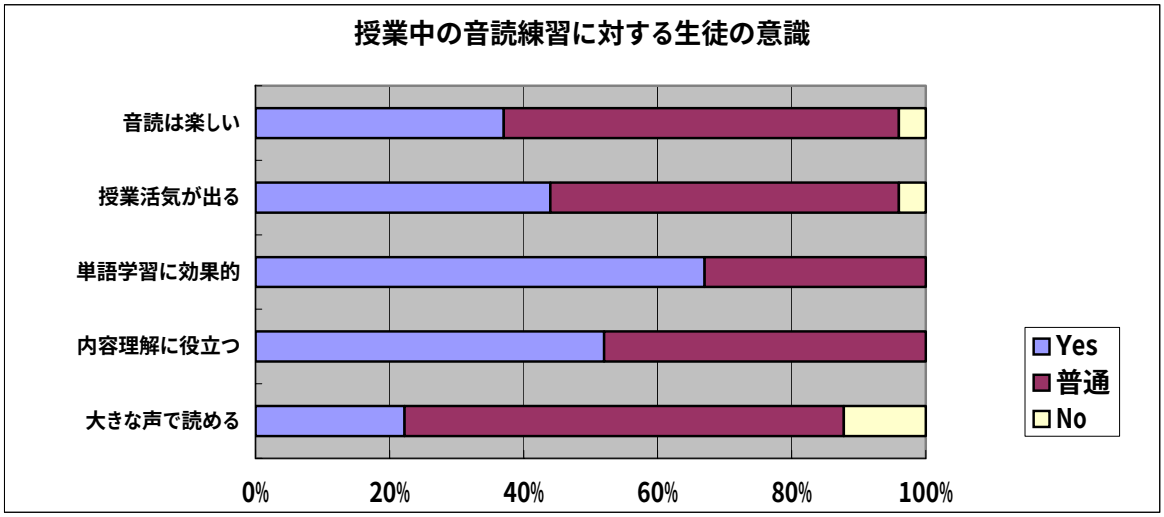
はじめに具体的な目標として、次の 4 つの段階を設定した。

1. 単語を発音、スペリング、意味の 3 点で覚えさせること。
2. 文章をチャンクでとらえその意味を理解すること。
3. 音読を重ねることで内容をよりよく理解すること。
4. 大切な文法事項の含まれたセンテンスを暗唱できるようにすること。

現在のところ、第 3 段階までは、半数以上の生徒が到達できていると言える。今後第 4 段階の暗唱と、目標に達していない生徒の指導が課題である。

３　生徒の反応

2 学期の中間考査を終えて、生徒にアンケートをとったが、結果は以下のとおりである。



生徒の大部分があまり抵抗なく音読練習に取り組めていることがわかった。単語学習に効果的であると答えた生徒は 6 割以上で、毎週月曜日の朝、SHR 時に全校で行っている単語テスト（教科書の定められた範囲から出題）に、その成果が現れている。

＜生徒の感想＞

- 音読を何度もやっていると、自然と頭に入ってくるので、単語とかも覚えられていいと思います。
- 前よりも読めるようになって英語が楽しくなった。
- 眠い時に音読をすると眠気がまぎれる気がする。
- 読みをするようになってから頭の中に内容が入ってくるようになりました。
- 単語を覚えるとき、発音から書けるようになった。

しかし、少数ではあるが、音読に対して「めんどうくさい」とか「和訳が分からなくなる」など、消極的な生徒もいる。音読の必要性を説き､楽しく練習できるよう工夫が必要であると反省した。また、スピードについていけないと感じている生徒もいるようなので、練習のときに困っている生徒がいないか確認するなど、細かな配慮が必要である。場合によっては個別指導も必要であると思った。

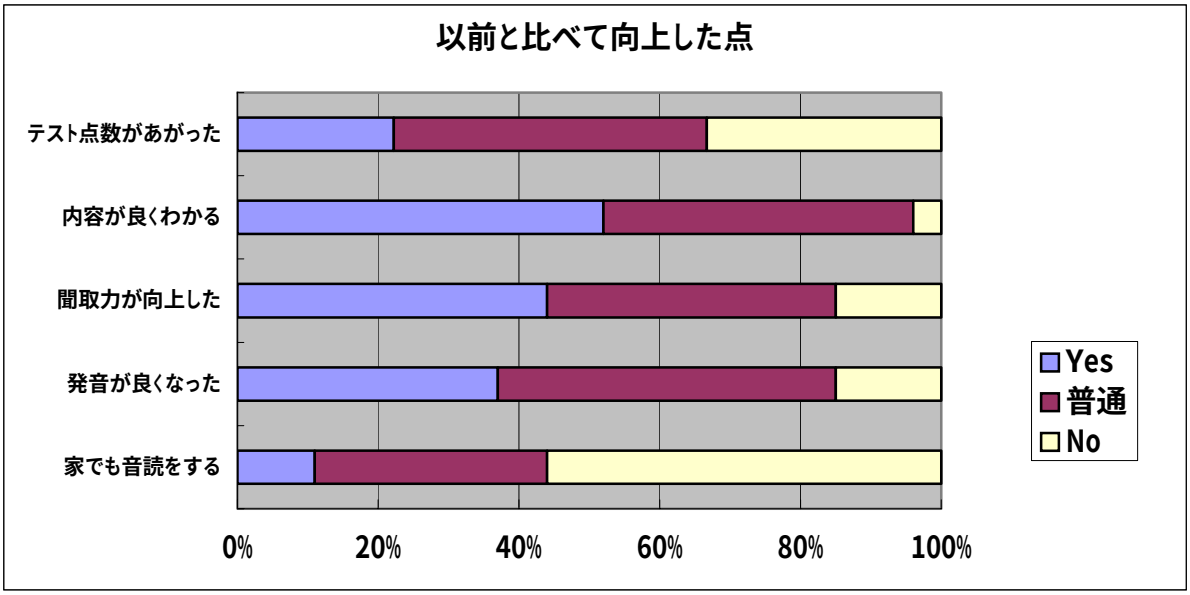
＜生徒の感想＞

★ 音読も大切だけれど文の意味がわからないから訳をゆっくり言って欲しいです。

★ テスト前に音読をやるのは少しつらい。

★ 速すぎてついていけない。

★ どうしたら単語が読めるようになるかわからない。



生徒自身の評価で、「内容が良く分かるようになった」と答えた生徒が半数以上いることは、音読中心の授業を進めてきてうれしい結果である。さらに 2 割以上の生徒が、「テストの点数が上がった」とも答えており、ペーパーテストの工夫・改善と合わせて、音読の効果が現れてきていると確信した。

＜生徒のコメント＞

- 「何で何度もやるんだろう」と思ったけど、テストの穴埋めの問題のときに結構思い出せたから、すごく役立つと思いました。
- 音読を始めてからテストの点が上がった気がする。

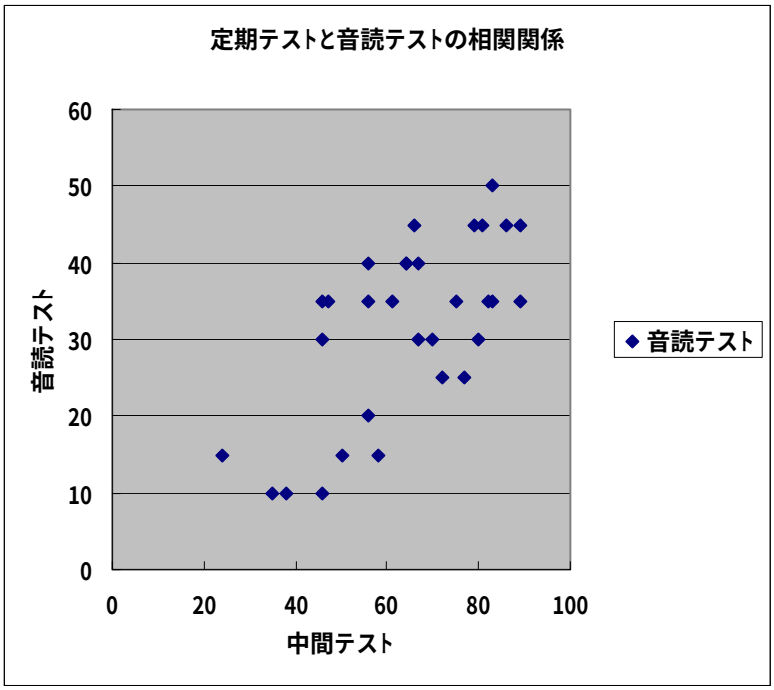
課題は、音読が授業の中だけで終わってしまい、家庭学習に活かされていないことである。なんとか改善を図る必要がある。家庭でも活用できるように、生徒一人一人に音声教材（CD,MD,テープ等）を持たせたいと考えている。また、授業内の練習だけでは不十分な生徒には、昼休みや放課後の時間を利用して個別指導を行いたい。

＜生徒のコメント＞

★ テストが悪い点ばかりでやる気がなくなってしまう。

★ 授業では読めても後でわからないところも出てくるので、CD があると便利だと思います。

4　ペーパーテストと音読テストとの相関関係



グラフからも分かるように、二学期中間考査と、直前の音読テストの成績は、ほぼ比例している。また、音読テストに関しては、取り組みに積極的なグループと消極的なグループのメンバーが固定化しており、成績の差も開いてきている。後者に対しては、音読の意義を再認識させると同時に、放課後、昼休み等に時間を見つけ、個別に音読指導をする必要がある。

5　感想とこれからの課題

初めは、生徒が音読の学習活動に意欲的に取り組むか心配していたが、期待した以上に音読を楽しく行っているので、授業を順調に展開することができた。学年共通で指導ができたら、音読テストをもっと効果的に行えると思う。教員間の共通理解と年間指導・評価計画の必要性を痛感した。今後は、音読練習の成果を、リスニングやスピーキングといった観点から試してみたい。